



文化財愛護
シンボルマーク

大栄町埋蔵文化財調査報告書第34集



鳥取県東伯郡大栄町 DAI EI

SETO IWAKOYAMA
瀬戸岩子山遺跡発掘調査報告書

【瀬戸35号・36号墳の調査】

1998
大栄町教育委員会



瀬戸岩子山遺跡・瀬戸35号・36号墳航空写真



<10>0100572999

序 文

この報告書は、県営大倉地区土地改良総合整備事業に伴い、平成7年度から平成8年度に実施した埋蔵文化財の発掘調査の記録であります。

本町は、昭和49年度から始まった鳥取県畠地総合土地改良事業をはじめ、ダム建設、農道整備など多くの開発事業が実施されており、このため文化財保護の立場から、各関係機関と協議を重ね、開発工事と文化財調査の調整をはかり、さらに地元の方々のご理解とご協力を得て、円滑に文化財行政を進めるよう努力しているところです。

今回調査した瀬戸35号・36号墳は、前年に行った試掘調査で新たに発見された古墳であり、その調査において、多くの成果を有することができました。

発掘調査の成果を報告する本書が、文化財愛護の浸透ならびに教育・研究の一資料としてご活用いただければ幸いに存じます。

この調査にあたり、ご協力いただいた関係各位、とりわけ、現場で作業に従事していただいた皆さん、ご指導いただいた鳥取県教育委員会文化課ならびに鳥取県埋蔵文化財センターの方々に対し、深く感謝と敬意を表わすものであります。

平成10年2月

大塙町教育委員会

教育長 村岡 守

例　　言

1. 本報告書は、大栄町教育委員会が県営大倉地区土地改良総合整備事業に伴い、鳥取県倉吉農林振興局の委託及び国県の補助金（5項取扱）を受けて、平成7年度及び8年度に行った瀬戸岩子山遺跡並びに瀬戸35号、36号墳の発掘調査の記録である。
2. 瀬戸岩子山遺跡並びに瀬戸35号、36号墳は、大栄町大字瀬戸字岩子山530-1、533、534番地に所在する。
3. 発掘調査及び整理報告書作業の実施にあたっては、鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センターの指導、助言、協力をいただいた。
4. 35号墳第1号埋葬施設石棺出土人骨については、鳥取大学医学部法医学教室井上晃孝教授に鑑定を依頼した。
5. 本書で使用した方位は全て磁北を示し、レベルは海拔標高である。
6. 本書の執筆、編集及び構造、遺物の撮影は河本、永田が行った。
7. 本書に収載した実測図の原図は、調査に参加した全員の協力によって作成され、製図及び墨書きは河本、山本、倉光が担当した。
8. 使用した地形図は、建設省国土地理院発行の5万分の1地形図「倉吉」「伯耆浦安」である。
9. 出土遺物の復元は、河本、山本、倉光、佐伯の手による。
10. 図面、写真、出土遺物は大栄町教育委員会が、人骨、歯牙は鳥取大学医学部がそれぞれ保管している。

調　　査　　体　　制

調　　査　　團　　長	村岡　守	(大栄町教育委員会教育長)
文化財保護委員	西東金之助・西田徳福・阪本照夫	
調　　査　　指　　導	山耕雅美	(鳥取県埋蔵文化財センター)
調　　査　　員	河本いづみ	(大栄町教育委員会教育課)
調　　査　　補　　助　　員	永田洋子	(　　〃　　)
〃	山本久枝	(　　〃　　)
事　　務　　局	岩垣　穀	(　　〃　　)
〃	永田洋子	(　　〃　　)
調　　査　　作　　業　　員	倉光るり子・佐伯美紀子・陶山美幸・陶山中吉・竹信　茂・中村玲子 石丸孝人・西田明孝・中村三男・宮地喜久枝・下城明子・松中清子 西本重光・山本勇太郎・河本秀光・梶本　穀・梅津美心・遠藤岑生 下城一明・阪本照夫・遠藤啓子・遠藤紀子・河本幸子・中原由香里	

本文目次

序文	
序例	
第1章 調査に至る経過	1
第2章 位置と環境	1
第3章 調査の結果	5
第1節 調査の概要	5
第2節 五輪塔	5
第3節 潬戸35号墳	5
第4節 潤戸36号墳	15
第5節 石蓋土壙墓群	22
第6節 土壙墓群	25
第4章まとめ	36
付章	
潤戸35号墳出土人骨 鳥取大学医学部 井上晃孝	37
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

挿図1 周辺の地形と遺跡分布図	3
挿図2 潤戸古墳群分布図	4
挿図3 潤戸35号・36号墳丘遺存図	8~9
挿図4 潤戸35号墳 墳丘断面図	10~11
挿図5 潤戸35号墳 第1号埋葬施設平面図	12~13
挿図6 潤戸35号墳 第2号埋葬施設平面図	14
挿図7 潤戸36号墳 墳丘断面図	16~17
挿図8 潤戸36号墳 第1号埋葬施設平面図	18
挿図9 潤戸36号墳 第2号埋葬施設平面図	19
挿図10 潤戸36号墳 第3号埋葬施設平面図	21
挿図11 潤戸36号墳 第4号埋葬施設平面図	21
挿図12 石蓋土壙墓1号平面図	23
挿図13 石蓋土壙墓2号平面図	23
挿図14 石蓋土壙墓3号平面図	24
挿図15 石蓋土壙墓4号平面図	24
挿図16 土壙墓1~3号平面図	25
挿図17 土壙墓4~7号平面図	26
挿図18 土壙墓8~11号平面図	27
挿図19 土壙墓12~15号平面図	28
挿図20 土壙墓16~19号平面図	29
挿図21 潤戸35号墳出土遺物実測図(1~7)	32
挿図22 潤戸35号墳出土遺物実測図(8~11)	33
挿図23 土壙墓群・潤戸36号墳出土遺物実測図(12~24)	34
挿図24 潤戸35号墳 1号・2号人骨遺残骨名	35

挿表目次

表1 潮戸35号墳出土遺物一覧表	30
表2 土壙墓群・潮戸36号墳出土遺物一覧表	31

写真図版目次

図版1 1 調査前遠景（東から）	
2 潮戸35号・36号墳調査前近景（北から）	
3 潮戸35号・36号墳全景	
4 潮戸35号・36号墳全景	
図版2 5 潮戸35号墳周溝埋土状況（東から）	
6 潮戸35号墳墳丘盛土状況（南東から）	
7 潮戸35号墳第1号埋葬施設石棺蓋石検出状況（北から）	
8 潮戸35号墳第1号埋葬施設石棺蓋石除去後（南から）	
図版3 9 潮戸35号墳第1号埋葬施設石棺内	
10 潮戸35号墳第1号埋葬施設石棺内1号人骨	
11 潮戸35号墳第1号埋葬施設石棺内2号人骨（歯牙）	
12 潮戸35号墳第1号埋葬施設人骨取上げ後	
図版4 13 潮戸35号墳第1号埋葬施設完掘状況（北から）	
14 潮戸35号墳第2号埋葬施設（東から）	
15 潮戸35号墳第2号埋葬施設石棺内（北から）	
16 潮戸35号墳第2号埋葬施設完掘状況（北から）	
図版5 17 潮戸35号墳周溝内土器出土状況	
18 潮戸35号墳周溝内黒曜石出土状況	
19 潮戸36号墳全景（南から）	
20 潮戸36号墳西側土層断面（南から）	
図版6 21 潮戸36号墳北周溝埋土状況（西から）	
22 潮戸36号墳西周溝検出状況（南から）	
23 潮戸36号墳第1号埋葬施設（南から）	
24 潮戸36号墳第1号埋葬施設完掘状況	
図版7 25 潮戸36号墳第2号埋葬施設（北から）	
26 潮戸36号墳第2号埋葬施設完掘状況	
27 潮戸36号墳第3号埋葬施設（南から）	
28 潮戸36号墳第3号埋葬施設完掘状況（南から）	
図版8 29 潮戸36号墳第4号埋葬施設（北から）	
30 潮戸36号墳第4号埋葬施設完掘状況（東南から）	
31 石蓋土壙墓1号・2号（東から）	
32 石蓋土壙墓3号・4号（西から）	
図版9 33 土壙墓7号土器片出土状況（北から）	
34 潮戸36号墳西周溝内土器出土状況	
35 五輪塔	
36 潮戸35号墳第1号埋葬施設人骨取上げ状況	
図版10 37 潮戸35号墳第1号埋葬施設出土遺物（1～3）	
38 潮戸35号墳出土遺物（4～8）	
図版11 39 潮戸35号墳出土遺物（9～12）	
40 土壙墓7号出土遺物（13～16）	
図版12 41 潮戸36号墳出土遺物（17～25）	

第1章 調査に至る経過

平成6年10月、鳥取県倉吉地方農林振興局から県営大倉地区土地改良総合整備事業の実施にあたり、大栄町教育委員会に埋蔵文化財の有無とその取扱いについて事前協議があつた。

これを受けて町教育委員会は、現地踏査を実施し、古墳状の高まり等を確認した。この地域の南西側一帯は、瀬戸・西穂波古墳群として100基にのぼる群集墳形成地であり、当該地に遺跡の存在が充分考えられることから、開発工事との調整を図るべく、平成7年9月から10月にかけて国庫補助事業により試掘調査を実施した。

その結果、大栄町大字瀬戸字岩子山において新発見の古墳が検出されたことから、この古墳を瀬戸35号・36号墳と命名した。その後の協議の結果、土地改良総合整備事業の区域の変更が不可能であることから記録保存するために発掘調査を行うこととした。

発掘調査は、平成8年3月4日から平成9年2月7日まで行った。

第2章 位置と環境

鳥取県東伯郡大栄町は、鳥取県のほぼ中央に位置し、東は北条町、西は東伯町、南は倉吉市に隣接し、北は日本海に面し、海岸線を北端にして、南西に長く三角形を形づくる。

東西6.5km、南北9.3km、総面積36.22km²の町である。大栄町は中国山地の主峰大山の北東麓にあり、南西端より北東方向に緩傾斜し、なだらかな火山灰土の丘陵を形成している。この丘陵地帯は、いわゆる黒ぼく畑であり、すいかをはじめとする野菜栽培が盛んである。

東高尾地内に源を発する由良川は、瀬戸地内で北西に流れを変え、由良宿の北方で砂丘を横断して日本海に注いでいる。由良川の沿岸及び町の東部には低平な沖積平野がひらけ水田が多い。

町内の埋蔵文化財は、大山火山灰土の丘陵地を中心として、集落跡、古墳、散布地などの遺跡が数多く存在している。その大部分は、弥生時代中期から古墳時代にかけての集落跡と古墳である。縄文時代および奈良時代～平安時代の遺跡もいくつか知られている。

縄文時代の遺跡として築山遺跡(12)、青木第1遺跡(1)があり、縄文時代早期から晩期の土器片が出土している。弥生時代の遺跡として、丹塗りの脚付無頸壺の出土した青木第2遺跡(2)、水晶の玉作り工房跡が検出された西高江遺跡(14)の中期の遺跡がある。大谷第1遺跡(4)は弥生前期～中期および中世の複合遺跡である。弥生時代から古墳時代にかけての集落は増加する。弥生時代後期にはじまる主な遺跡は、青木第4遺跡(3)、高江神

社遺跡(17)、東高江遺跡(15)、別所経塚遺跡(18)、別所東屋敷遺跡(21)、後ろ谷遺跡(28)、
上種第5遺跡(40)、などがある。古墳時代にはじまる集落としては、古社地遺跡(20)、今
地遺跡(23)、龜谷第1遺跡(31)、上種第1遺跡(39)、上種第6遺跡(41)、下種第1遺跡(36)
などである。これらのうち古社地遺跡は奈良・平安時代に至る複合遺跡である。

古墳は、丘陵台地に数基から十数基の単位で存在する。町内の主な古墳群は、妻波(13)、瀬戸(24)、西穂波(25)、原(48)、穂波(49)、龜谷(30)、下種(34)、上種西(42)、上種中央(43)、上種東(44)古墳群である。

妻波古墳群は21基の古墳がこれまでに確認されており、古墳時代中期の妻波1号墳(妻波向畠古墳)では、V字状の石枕を有する箱式石棺が検出されている。瀬戸古墳群は34基(内14基は、昭和56年畑総事業で調査後消滅)、西穂波古墳群は63基の古墳がこれまでに確認されており、大栄町でも最大の古墳群である。瀬戸古墳群は大栄町大字瀬戸の集落の西にひろがる標高20m前後の丘陵上に存在しているもので、西は西穂波古墳群へと連なる。瀬戸古墳群は主に円墳で、主体部は横穴式石室が主流である。西穂波古墳群は主に円墳で、主体部は横穴式石室と箱式石棺が主流である。時期は、古墳時代後期である。

原古墳群は9基の古墳が確認されており北条町の曲古墳群へと続いている。穂波古墳群は6基の古墳が確認されており倉吉市上の神古墳群へと続いている。

龜谷古墳群は9基、上種・下種の古墳では、上種中央古墳群は33基、上種西古墳群は18基、上種東古墳群は12基、下種東古墳群は11基、下種古墳群は9基の計84基の古墳が確認されている。ほとんどの古墳群は主に円墳であるが上種西1号墳、西穂波16号墳は前方後円墳であり、上種西14号墳、下種8号墳は帆立貝式前方後円墳である。他に、由良古墳(16)、経塚古墳(19)、野田古墳群(37)、宮尾古墳(35)、加茂山古墳(45)、東園発見古墳(47)がある。大栄町内で現在発見されている古墳の数は250基で、今回の瀬戸35号・36号墳を含め252基となるが、妻波古墳群を除いてほとんどの古墳群が古墳時代後期築造と考えられ、その古墳群はほぼ由良川流域に面した丘陵地に存在している。その土地の条件や環境の良さから、県内では、淀江町や北条町に次ぐような古墳の密集地帯と考えられる。

瀬戸35号・36号墳の存在する丘陵周辺の遺跡をみると、由良川を挟んで南の丘陵には島遺跡があり、北西に下ると今地遺跡や由良遺跡等の弥生時代後期以降の集落跡が存在しており、更にその西の丘陵には妻波古墳群がある。由良川を南西に上ると龜谷遺跡、下種遺跡、上種遺跡が連なって存在している。なかでも、今回調査した瀬戸岩子山遺跡一帯は、古くより神聖な場所として言い伝えられており、それを証明する調査結果となった。

注1) 大栄町「大栄町誌」1980所収

注2) 「妻波古墳群発掘調査報告書 1980」 大栄町教育委員会

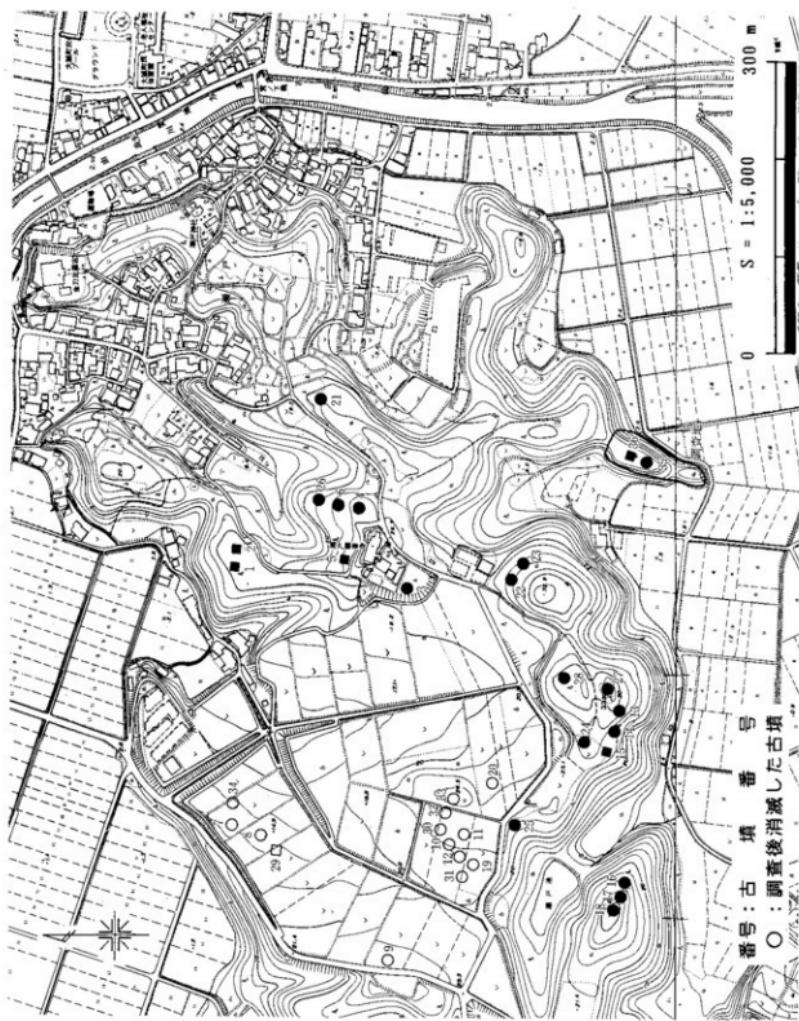
注3) 「大栄地域遺跡群分布調査報告書Ⅳ 1983」 大栄町教育委員会



1 背木第1遺跡	11 大谷11号墳	21 別所東裏敷道路	31 亀谷遺跡	41 上種第6遺跡	51 渚水谷古墳群
2 背木第2遺跡	12 葉山遺跡	22 由良遺跡	32 下種東古墳群	42 上種西古墳群	52 大塚山古墳
3 背木第4遺跡	13 妻波古墳群	23 今地遺跡	33 下種金剛院遺跡	43 上種中央古墳群	53 高鼻2号墳
4 大谷第1遺跡	14 西高江遺跡	24 潤井古墳群	34 下種古墳群	44 上種東古墳群	
5 大谷第2遺跡	15 東高江遺跡	25 西櫛波古墳群	35 宮尾古墳	45 加茂山古墳	
6 大谷第3遺跡	16 由良1・2・3・4号墳	26 鳥道群	36 下種第1遺跡	46 東峯遺跡	
7 大谷第6遺跡	17 高江神社遺跡	27 千日野遺跡	37 野田古墳群	47 東園尾見古墳	
8 大谷1・7号墳	18 別所綾塚遺跡	28 後ろ谷遺跡	38 高千穂遺跡	48 原古墳群	
9 大谷6号墳	19 穏塚1・2号墳	29 向野遺跡	39 上種第1遺跡	49 稲波古墳群	
10 大谷8号墳	20 古社地遺跡	30 亀谷古墳群	40 上種第5遺跡	50 東鳥ヶ尾古墳	

図1 周辺の地形と遺跡分布図

挿図2 潟戸古墳群分布図



第3章 調査の結果

第1節 調査の概要

瀬戸岩子山遺跡は、大栄町東北部に位置し、瀬戸金比羅宮から南西約500mの水田に突出した小高い丘陵部に位置する。丘陵は東西斜面及び南側先端部が既に大きく削り取られており、旧状が大きく変えられている。調査地の北側には瀬戸古墳群があり、今回調査した2基の古墳は新たに発見されたもので、南から瀬戸35号墳、36号墳とした。35号墳は円墳で、直径が約18m規模の古墳である。36号墳は方墳で、一辺11m×17mの規模の古墳である。埋葬施設は組み合わせ箱式石棺（35号墳第1・2号埋葬施設、36号墳第1・2号埋葬施設）、石蓋土壙墓（36号墳第3・4号埋葬施設）を検出した。古墳以外に調査地南側に五輪塔2、36号墳丘西側周溝上に土壙墓19基と墳頂部北側に石蓋土壙墓4基を検出した。遺物は35号墳第1号埋葬施設から人骨2体と副葬品の鉄刀と刀子を検出し、36号墳第3号埋葬施設から勾玉3個が出土した。その他に土師器、須恵器等が出土した。

第2節 五輪塔（挿図3、図版9）

調査地の最南にあり、瀬戸35号墳より南に約25m先に位置する。

瀬戸神社沿革誌によれば、『氏神より未申方、岩子山と申す山に摂社八幡宮の社有り、保元の頃の乱に岩子某討死の所にて、其の後崇り御座候故、靈位八幡宮に祭り、今に至るまで岩子八幡宮と奉尊敬仕り候。祭日8月15日に御座候 同所に白山と申する小山有りて往古は島山に御座候、神代諸冊二柱神矛を鏽させ給う山と申伝はり、度々不思議なる事御座候故今もって小山を白山と申し伝候。』とあり、この地域一帯は古くより神聖な場所として奉られており、調査地南端には、不揃いな五輪塔が現存していた。調査により、表土内から風・空輪部分が出土したことから、以前五輪塔は2塔あったものと考えられる。また調査地で発見されなかった火輪部分は、瀬戸神社境内にあることが分かった。岩子八幡宮は、明治始めの鳥居合併により、瀬戸神社に移されており、その時鳥居、祠と一緒に火輪部分を瀬戸神社に運んだものと思われる。五輪塔の規模は高さ約1mである。風・空輪は1石で彫られている。遺構として、0.8m×1mの四角形の土坑1基と直径1mのほぼ円形の土坑1基を検出した。土坑間の距離は2.5mであり、その間隔から土坑は瀬戸神社に移された鳥居の柱跡と考えられる。

第3節 潰戸35号墳 (挿図3~6、21、22、24、図版1~5、9、10)

〈位置〉

潰戸35号墳は現状では南西へのびる尾根先端に位置し、北側を36号墳と接している。35号墳は調査開始時既に西側墳端部が削り取られていた。墳頂部の標高は15mである。

〈墳丘〉

墳形は円墳で規模は直径18m、高さは周溝底から2.5mである。墳丘の築造は、地山を低い台状に削り出した後に盛土を行うものである。ただし、⑩層に腐植土がみられ、この段階で墳丘築造の一時的な休止があったと考えられる。なお、墳丘北側斜面に落ち込みを確認した。この底面にはたくさんの木の根跡があり、盛土の際にこの落ち込みが埋め立てられていることから、古墳築造時に木を取り除いたと考えられる。

〈周溝〉

周溝は南側のみに認められ、規模は上縁部で最大幅3.3m、深さ0.4mを測る。墳裾東側には長さ約6m、最大幅0.8m、深さ0.2mの規模をもった平面がカギ形の溝を検出した。

〈遺物〉

周溝底面で黒曜石(7)、土師器壺(5)、腐植土上で黒曜石(6)、高環(3、4)、盛土中で石錘(10、11)、円碟(8、9)などが出土した。

〈第1号埋葬施設〉

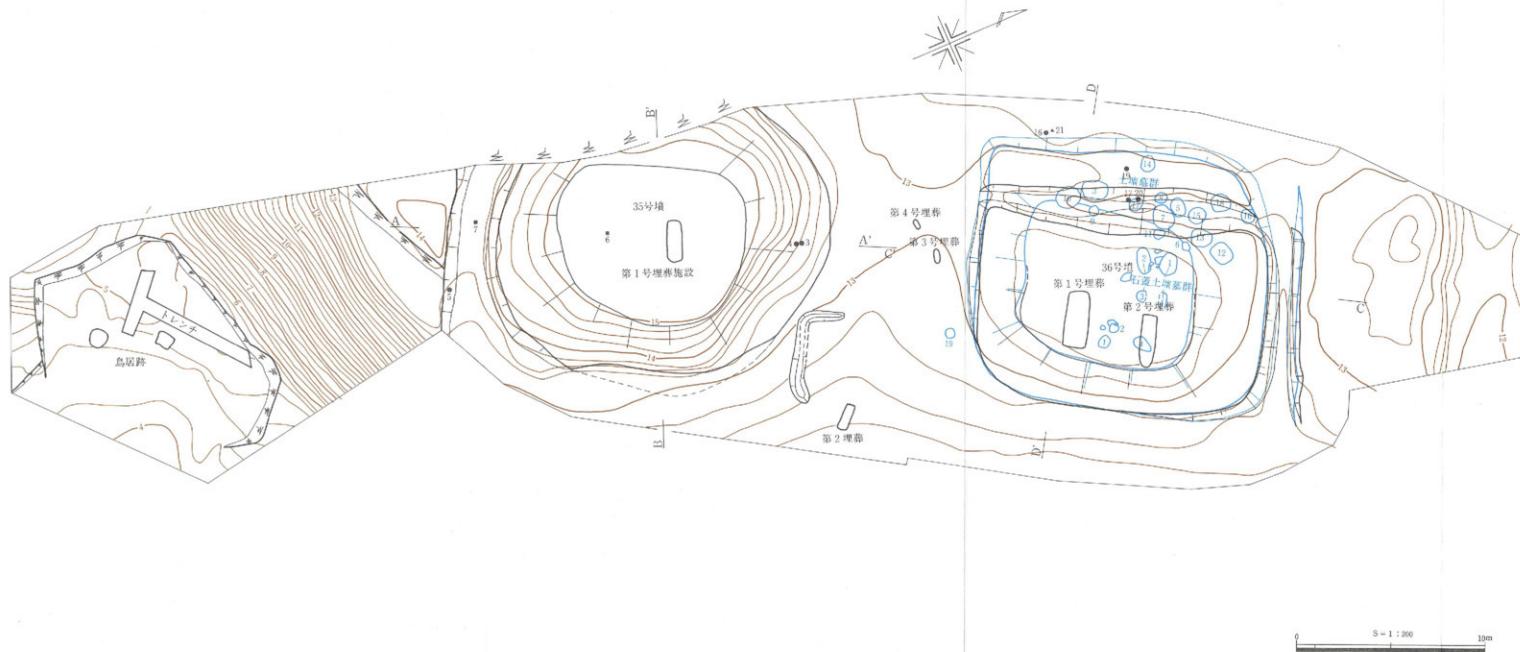
墳頂部やや北に位置する。盛土上面から0.5m下で蓋石を検出した。蓋石は大小2枚の板状の石で構成され、大型の蓋石で石棺全体を閉いだ後、東側のみ小型の蓋石を置く。蓋石の規模は、大型のもので長さ2.1m、幅1.35m、厚0.1m、小型のもので長さ0.55m、幅0.97m、厚0.05mである。蓋石と石棺の両側板及び両小口との間には、灰褐色粘土(⑩層)で丁寧に目張りされていた。石棺の主軸は、N-74°-Wにとる。石棺の形態は、両小口は2枚、両側壁は3枚の板状の石を組み合わせた箱式石棺である。両側石は小口石を挟み込むように板石2枚が中央付近で合わせて立てられ、隙間を塞ぐようにさらに1枚立てられている。石棺の規模は内法で長さ1.9m、幅0.45m棺底までの深さ0.3mである。棺内両小口にはV字状の石枕を配しており、東側は4枚で西側は7枚の板状の石で構成されており、1枚は頭骨側面に添えたように置かれていた。石棺を納めた墓壙は、平面ではほぼ隅丸長方形で、長さ2.8m、最大幅1m、深さ0.6mである。石棺は、⑩層堆積後に墓壙を掘り込み、両側板、両小口を立てる。墓壙と両側板、両小口の間に埋め土(⑪~⑫層)を行うと同時に、石棺内に床面(⑬層)を造る。墳丘の外縁に墳丘盛土を行い、墳丘盛土と石棺の間に土を埋め立て、粘土をしいた後に蓋石をする。石棺内床面には砂が敷かれており、厚さは3cmであった。また、石棺内側全体に朱が付着していた。石棺内底面では、人骨2体分、鉄刀1、刀子1、貝殻1が出土した。2体の人骨は頭位を反対にして下肢骨を交差している。棺内の西側(1号人骨)に全身骨格、東側(2号人骨)に歯牙と肢骨が遺存していた。1号人骨は遺存性がかなり良好ではば骨格順に遺存していたが、2号人骨は遺存性が悪く

もろいものであった。1号人骨は推定30代前半（壮年中期）の男性、2号人骨は推定20代後半（壮年中期）の女性とみられる。人骨の出土状況から、2号人骨が埋葬されたのち1号人骨が追葬されたものと考えられる。さらに、1号人骨上に砂があったことから埋葬時に遺体に砂をかけた可能性も指摘できる。1号人骨は頭頂部を真に向けており、頭骨には赤色顔料が多量に付着し、赤色が良く残っていた。赤色顔料は水銀朱とみられる。2号人骨は歯牙が遺存していた位置にわずかに朱が確認できたが数日で退色したことからベンガラ様の朱とみられる。なお、人骨についての詳細は付章にゆずる。鉄刀は長さ61cmあり、1号人骨の左脛肢骨に沿うように出土した。切っ先は東（足先）に向け、刃は側板側に向けて置かれていた。刀子は9.6cmあり、1号人骨の大脛骨の側に置かれ、切っ先を頭位に向ける。貝殻は、あさり貝と考えられ、2号人骨の左踵骨付近の砂中で出土した。

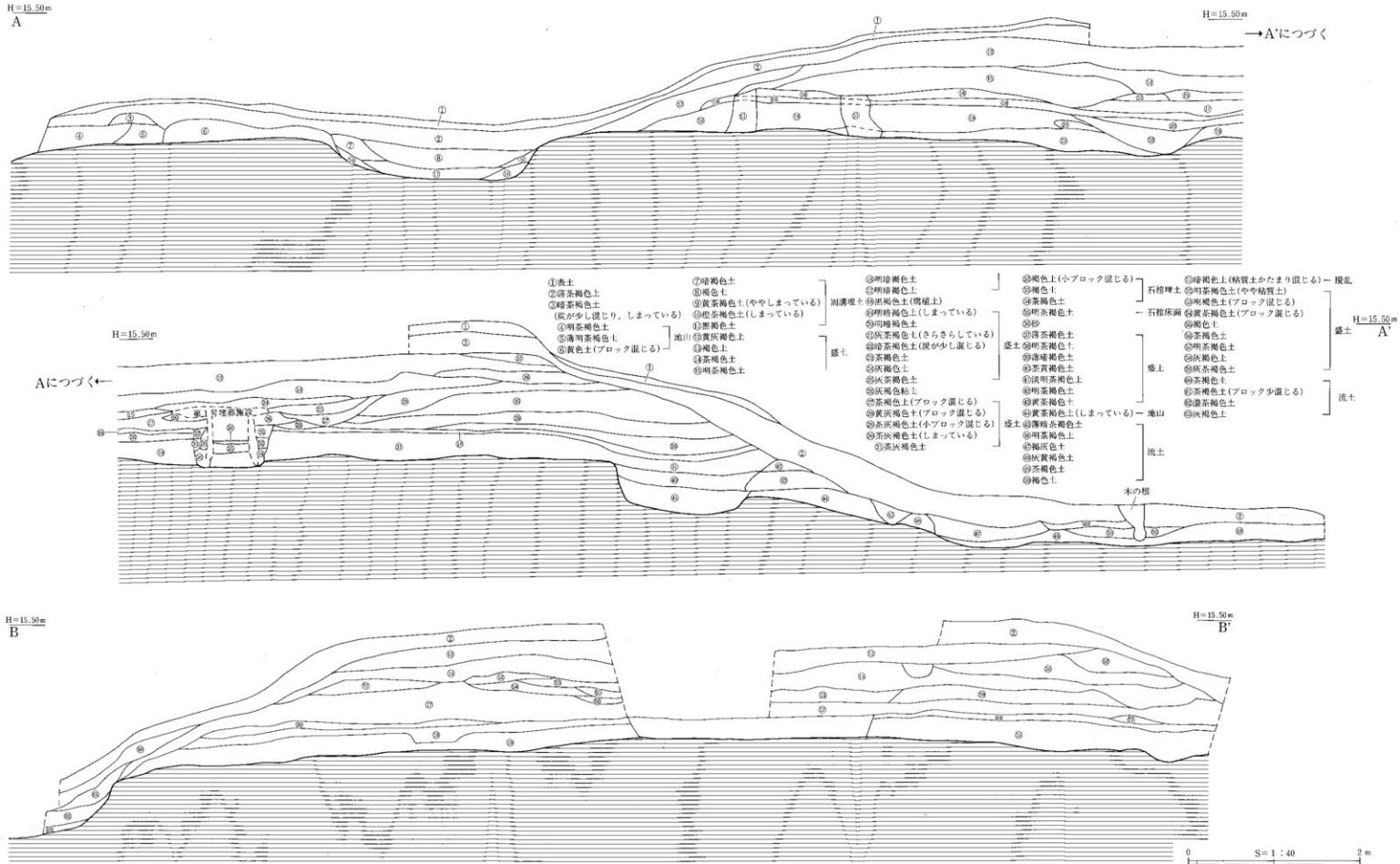
〈第2号埋葬施設〉

35号墳墳裾東側5m先に位置する。表土を50cmほど除去した段階で検出した。主軸はN-42°-Wにとる。埋葬施設の形態は北西側小口は1枚、南東側小口は2枚、南西側壁は2枚、北東側壁は1枚の板状の石を組み合わせた箱式石棺である。蓋石の規模は長さ110cm、幅55cm、厚さ最大5cmで数枚の板石を組み合わせたものである。棺内北西側小口には、V字状の石枕を配している。石棺の規模は、内法で長さ58cm、幅17cm、棺底までの深さ21cmである。墓壙は、平面は長方形で、長さ140cm、幅55cm、深さ30cmである。その規模から子供用のものと考えられる。副葬品など遺物は出土しなかった。

なお、南西5m付近にカギ状の溝があり、本埋葬施設を区画する意図があるものと考えられる。

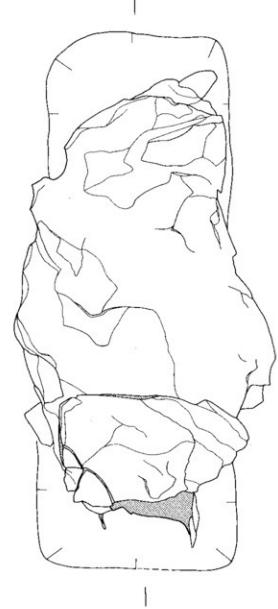
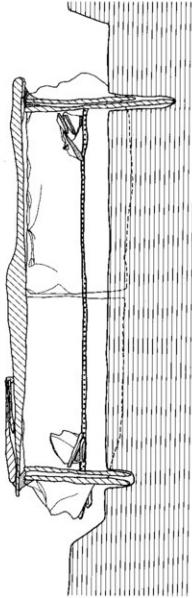


挿図3 潟戸35号・36号墳 墳丘遺存図

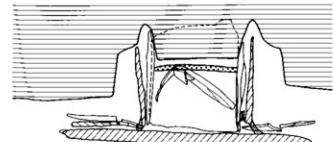
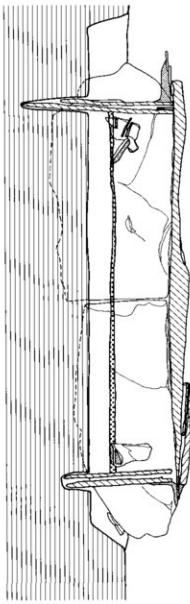
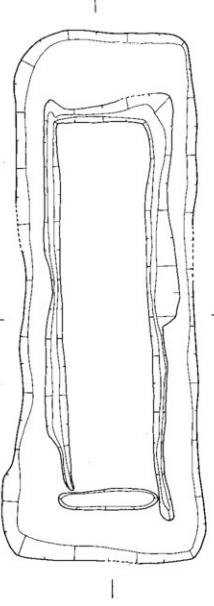
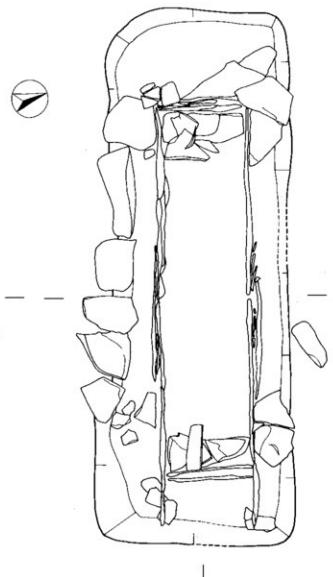
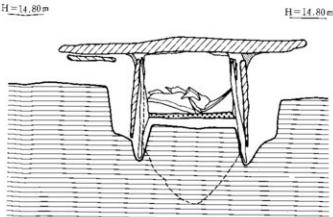


插図4 瀬戸35号墳 墳丘断面図

H=14.80m



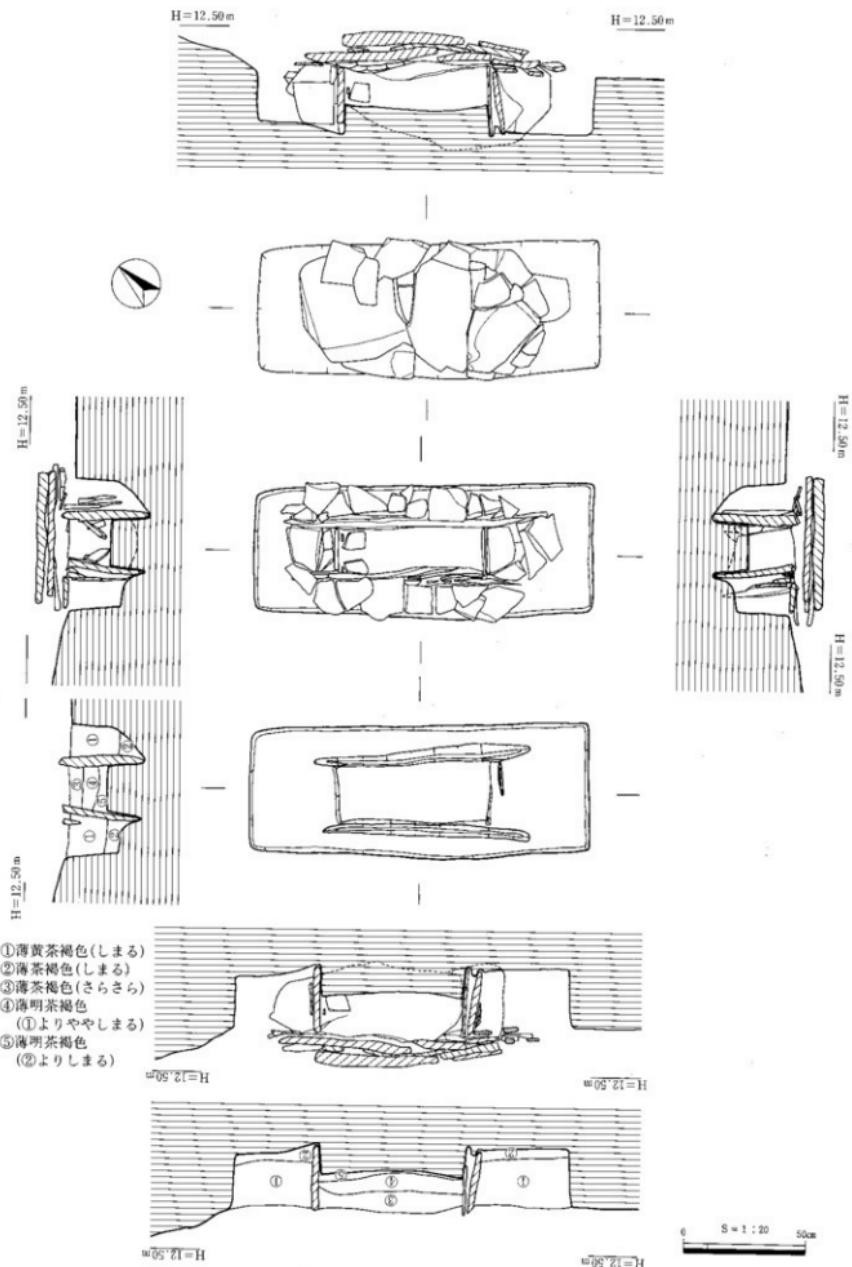
砂
粘土



插図5 濑戸35号墳 第1号埋葬施設平面断面図

0 S=1:20 1m

H=14.80m



挿図6 濑戸35号墳 第2号埋葬施設平面図

第4節 濑戸36号墳（挿図3、7～11、23、図版1、5～9、12）

〈位置〉

瀬戸36号墳は南西にのびる尾根のつけね側に位置し、南側を35号墳と接している。

〈墳丘〉

調査前の時点ではほとんど墳丘は目立たないものであったため、北方向と東西方向に幅30cm前後の土層観察用の畦を残して調査を行った。墳丘盛土は地山上25cm前後残存しているだけであった。墳形は方墳で、墳頂部の標高は13.7m、規模は11m×17m、高さは北側周溝底から1.4mである。

〈周溝〉

北側には周溝が確認され、東側には一部落ち込み層が確認されたが周溝は確認できなかった。西側は周溝が確認された。北側周溝の規模は上縁部で最大幅3.6m、深さ0.7m、西側周溝は最大幅5m、深さ0.7mを測る。西側周溝埋土上には土壙墓がいくつか確認されたため土壙墓群調査後周溝の検出を行った。

〈遺物〉

西周溝底面で土師器壺(17)、西側埋土中で須恵器高环(18)、須恵器环蓋(19)、須恵器环身(20)、古墳外で器台(16)、石のやじり(21)などが出土した。

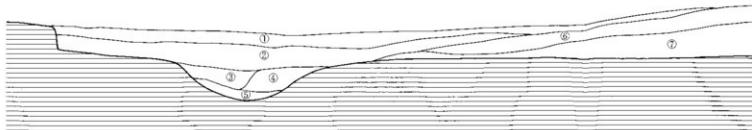
〈第1号埋葬施設〉

墳頂部やや東側に位置する。既に表土から石棺の側壁一部が露出しており、表土直下で検出された。主軸はN-62°-Wにとる。埋葬形態は西小口残存2枚、両側壁は数枚の板状の石を組み合わせた箱式石棺である。石棺の残存状態は悪く東小口欠損、西小口は外側に倒れていた。石棺の残存規模は、長さ2.4m、幅0.4m、深さ0.4m前後である。両小口の掘り方からみて内法は長さ約1.7mの石棺と考えられる。墓壙は平面で長方形で、長さ3.0m、幅1.14m、深さ0.5mである。

〈第2号埋葬施設〉

墳頂部やや東側で、第1号埋葬施設の北側2.8mに隣接する。主軸はN-60°-Wにとる。石棺の状態は悪く、石棺の西側半分が残存していた。西の小口石は側石にはさみこまれる形で小口石2枚、北側側石1枚、南側側石2枚と側石片数枚と東側小口上には平石が多数残存している。石棺の残存規模は、長さ1.5m、幅0.5m、深さ0.4mである。小口の掘り方からみて内法は長さ1.9mの石棺と考えられる。また石棺内西側底部には、板石4枚をV字状に組んだ石枕を配していた。墓壙は平面で長方形で、長さ2.6m、幅0.86m、深さ0.6mである。

H=14.00m
C



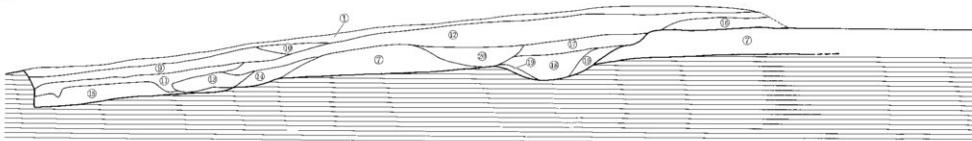
H=14.00m

→C'につづく

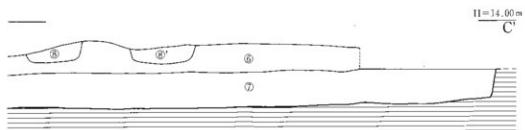
- ①茶灰褐色土(表土)
- ②茶褐色土
- ③褐色土
- ④暗褐色土
- ⑤暗茶褐色土
- ⑥黃褐色土
- ⑦黃色土(地山)
- ⑧褐色土(右置土壤墓1号)
- ⑨褐色土(右置土壤墓2号)

- ⑩灰褐色土
- ⑪暗灰褐色土(炭混じり)
- ⑫暗褐色土
- ⑬暗黃褐色土
- ⑭黃灰褐色土
- ⑮灰黃褐色土
- ⑯茶黃褐色土
- ⑰薄茶褐色土
- ⑱茶灰褐色土
- ⑲暗灰褐色土
- ⑳暗茶灰褐色土
- ㉑暗褐色土(土壤墓3号)
- ㉒明褐色土
- ㉓暗褐色土
- ㉔茶褐色土
- ㉕黃褐色土
- ㉖薄茶黃褐色土(ブロック混じり、ややしまりが悪い)
- ㉗黃色土(ブロック混じり、ややしまりが悪い)

H=14.00m
D



Cにつづく←

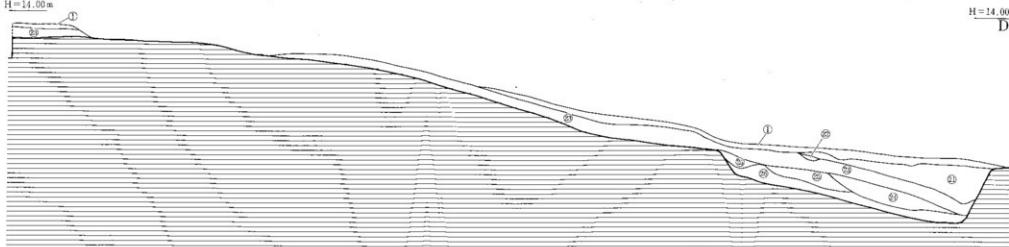


H=14.00m

→D'につづく

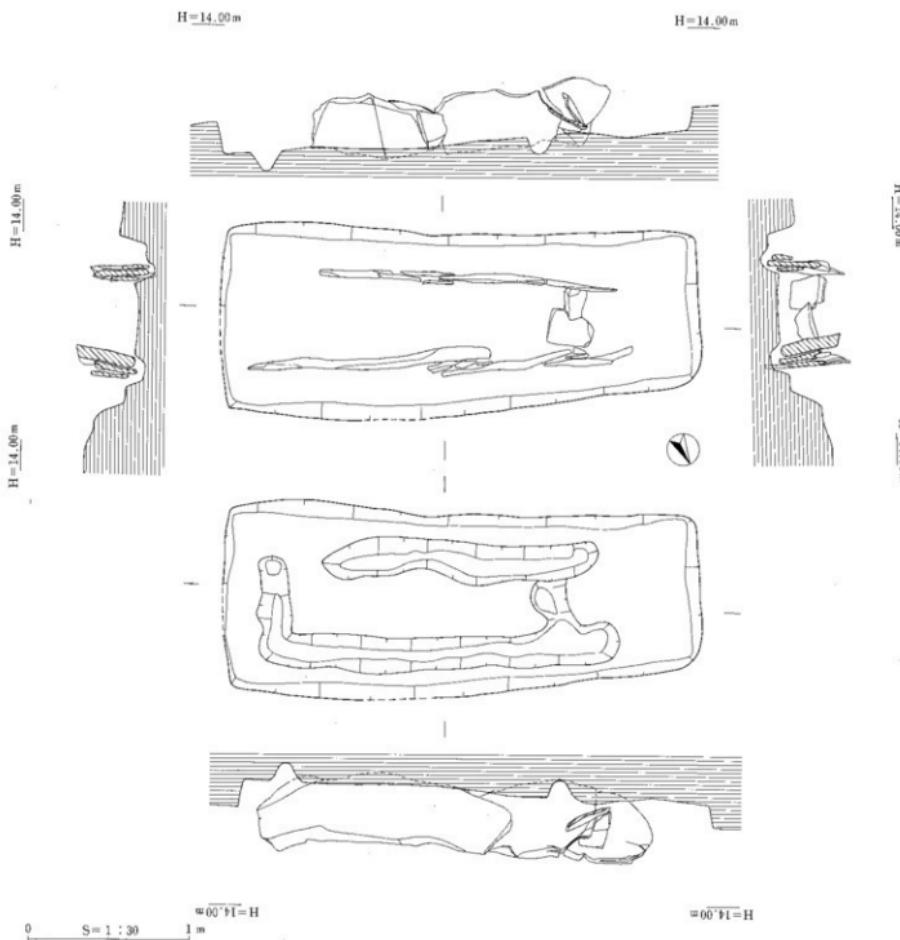
Dにつづく←

H=14.00m
D'



0 2 m
S = 1 : 40

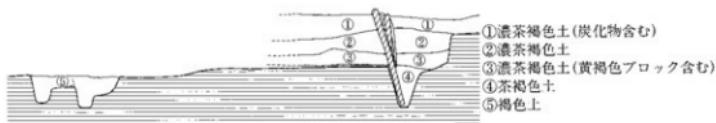
挿図7 潤戸36号墳 填丘断面図



插図 8 濑戸36号墳 第1号埋葬施設平面断面図

H = 14.00 m

H = 14.00 m



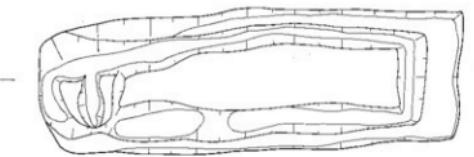
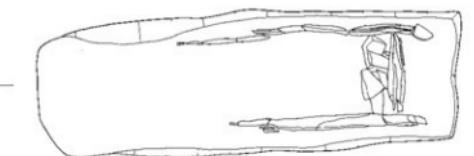
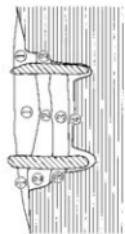
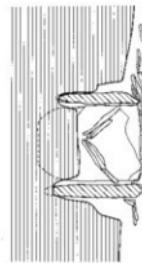
H = 14.00 m

H = 14.00 m H = 14.00 m

H = 14.00 m

$\frac{w_0}{H} \cdot H = H$

$\frac{w_0}{H} \cdot H = H$



0 S = 1 : 30 1 m

H = 14.00 m

H = 14.00 m

插図 9 濑戸36号墳 第2号埋葬施設平面面図

〈第3号埋葬施設〉

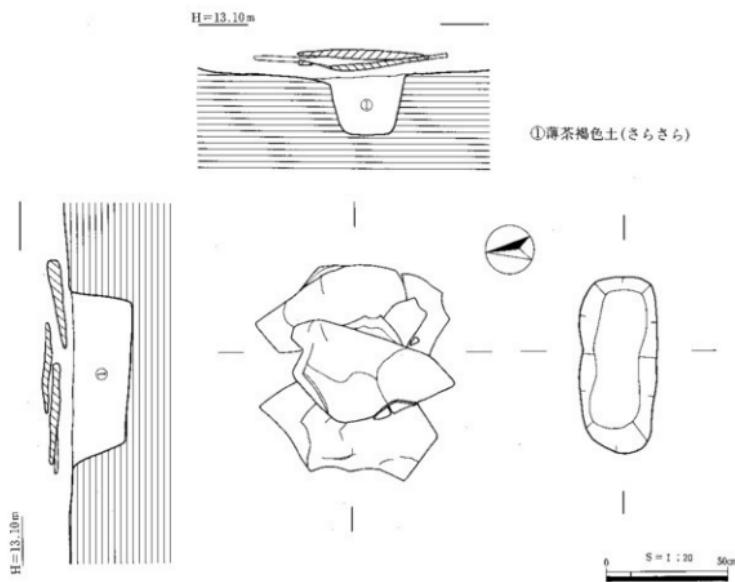
36号墳南側墳裾部に位置する。3号埋葬は表土から50cm下で板石3枚で組まれた石蓋土壙墓を検出した。主軸はN-83°-Wにとる。蓋石規模は、長さ85cm、最大幅80cm、墓壙規模は長さ72cm、幅30cm、深さ25cmを測る。東側床面に勾玉1個、掘り下げ中に2個が出土した。掘り下げ中に出土したものは、床面にあったとも考えられるが、原位置は不明である。

〈第4号埋葬施設〉

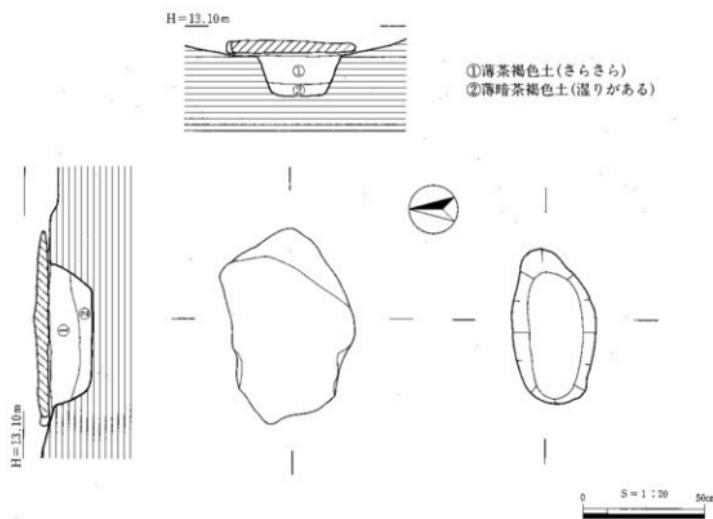
36号墳南側墳裾部に位置し、第3号埋葬施設の西1.5mに位置する。3号埋葬と同じ表土から50cm下で板石1枚で覆われた石蓋土壙墓を検出した。主軸はN-90°-Wにとる。蓋石規模は、長さ76cm、幅51cm、墓壙規模は、長さ64cm、幅35cmを測る。遺物は出土しなかった。



作業風景



挿図10 漢戸36号墳 第3号埋葬施設平面図



挿図11 漢戸36号墳 第4号埋葬施設平面図

第5節 石蓋土壙墓群（挿図12～15、図版8）

36号墳丘北側に位置する。表土除去中に蓋石を4か所で検出し、土壙墓は墳丘盛土を掘りこんで造られている。蓋石の高さからみて、墳頂部を削平された後に造られたと考えられる。のことから36号墳第1・2号埋葬施設より後に造られたと考えられる。

〈石蓋土壙墓1号〉

36号墳丘北側に位置し、36号墳第2号埋葬施設から西に3mで検出された。主軸はN-72°-Wにとる。蓋石の規模は、長さ1.0m、幅0.5m、石厚13cmである。土壙墓の規模は、長さ1.35m、幅0.65m、深さ0.24mを測る。蓋石の隙間に20cm前後の板石が6枚埋め込まれていた。遺物は出土していない。

〈石蓋土壙墓2号〉

36号墳北側に位置し、石蓋土壙墓1号から南に0.5mで検出された。主軸はN-62°-Wにとる。蓋石の規模は、長さ55cm、幅45cm、石厚10cmである。土壙墓の規模は、長さ1.25m、幅0.9m、深さ0.1mを測る。蓋石の隙間に25cm前後の板石が3枚埋め込まれていた。遺物は出土していない。

〈石蓋土壙墓3号〉

36号墳北側に位置し、石蓋土壙墓2号から東に1.0mで検出された。主軸はN-66°-Wにとる。蓋石の規模は、長さ85cm、幅66cm、石厚9cmである。土壙墓の規模は、長さ63cm、幅約45cm、深さ13cmで木の根の擾乱をうけている。蓋石の隙間に20cm前後の板石が1枚埋め込まれていた。遺物は出土していない。

〈石蓋土壙墓4号〉

36号墳北側に位置し、石蓋土壙墓3号から北に0.5mで検出された。主軸はN-62°-Wにとる。蓋石の規模は、長さ70cm、幅50cm、石厚12cmである。土壙墓の規模は、長さ約87cm、幅約45cm、深さ10cmで木の根の擾乱をうけている。蓋石の隙間に15～40cm前後の板石が2枚埋め込まれていた。土壙墓の南15cmの位置に焼土を検出した。遺物は出土していない。

H=14.00m

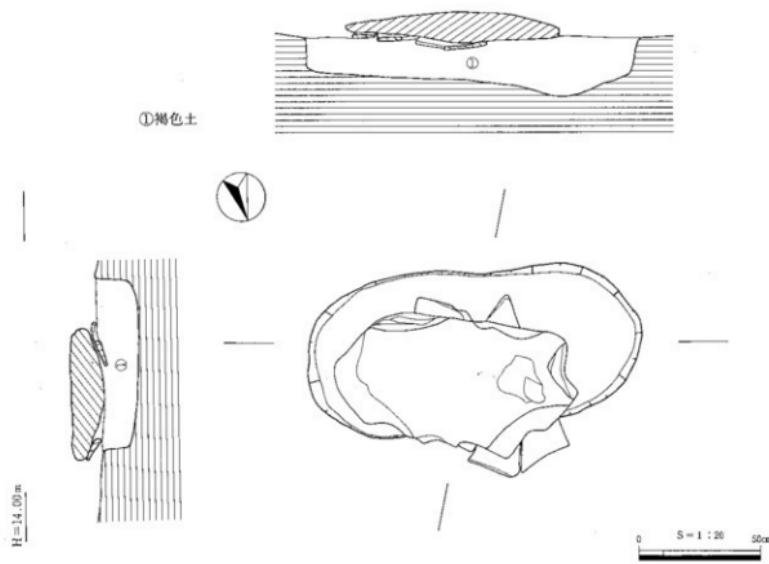


插圖12 石塚土壤墓 1号平断面圖

H=14.00m

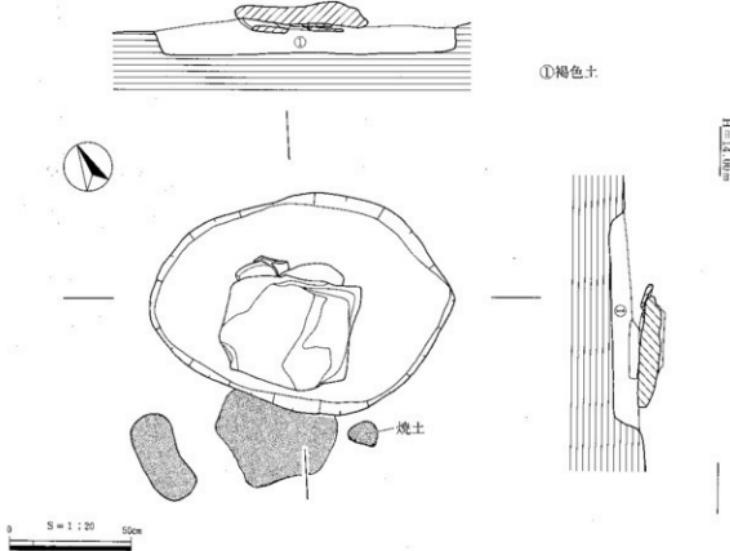
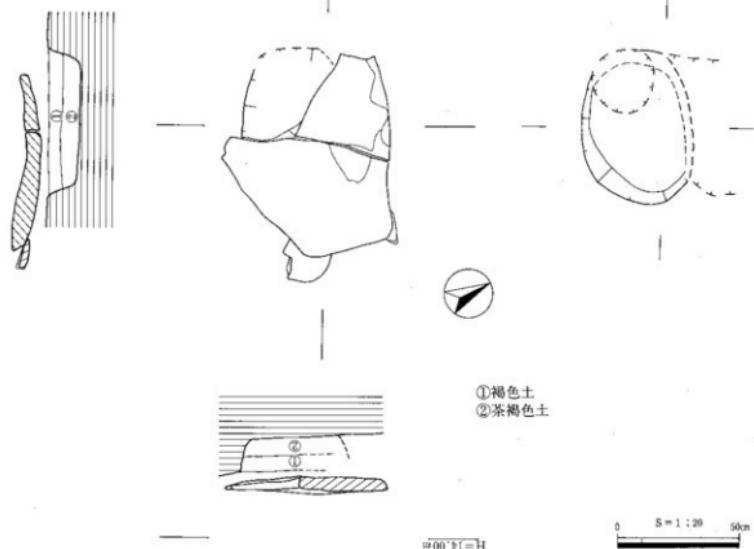


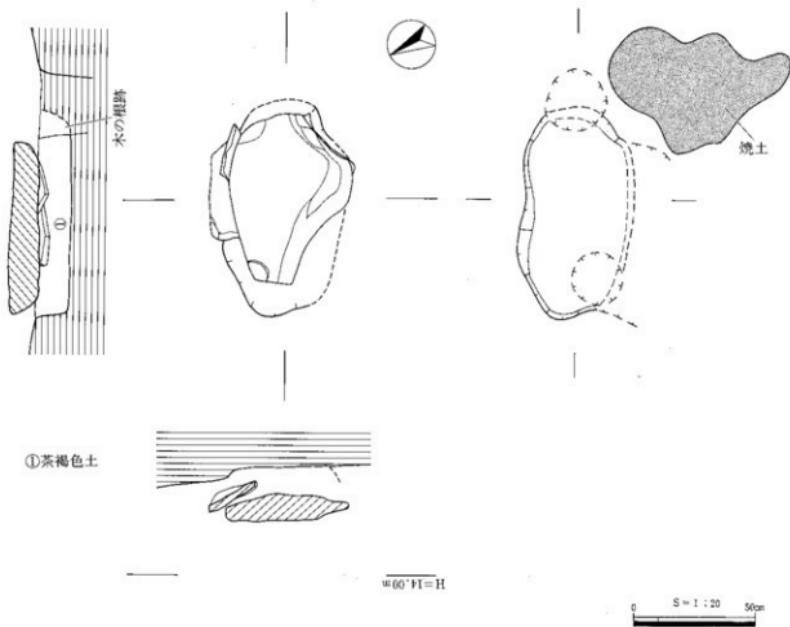
插圖13 石塚土壤墓 2号平断面圖

H=14.00m



插図14 石蓋土壤墓3号平面断面図

H=14.00m



插図15 石蓋土壤墓4号平面断面図

第6節 土壙墓群（挿図16～20、23、図版9、11）

36号墳丘上西側に位置する。土壙墓のはほとんどが西側周溝上で検出された。

標高は13.2～13.5mである。土壙墓の検出位置と高さから墳頂部が削平され西周溝を埋めたてた後に造られたと考えられる。このことから36号墳第1・2号埋葬施設より後に造られたと考えられる。

〈土壙墓1号〉

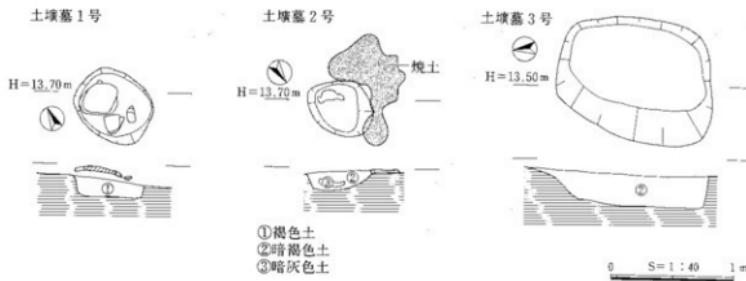
36号墳丘上の東側に位置する。平面形は円形で底面は平坦である。規模は直径で上縁部64cm、底面59cm、深さ15cmを測る。土壙上に最大34cmの平石が置かれていた。遺物は出土していない。

〈土壙墓2号〉

36号墳丘上の東側で土壙墓1号の西側に位置する。平面形は円形で底面はすぼまっている。規模は、上縁部51cm、底面35cm、深さ16cmを測る。まわりには、焼土があり、土層に暗灰色土のかたまりが入っていた。遺物は出土していない。

〈土壙墓3号〉

36号墳丘上の南西側に位置する。平面は楕円形で底面は平坦である。規模は、上縁部で長さ126cm、底面100cm、深さは深いところで25cmを測る。遺物は出土していない。



挿図16 土壙墓1号、2号、3号平面面図

〈土壤墓 4 号〉

36号墳丘上の北東に位置し、第2号埋葬施設の破損部分に築かれている。平面は不整の楕円形で底面は中央部がやや深くなっている。規模は、上縁部で長さ105cm、底面102cm、深さ15cmを測る。遺物は出土していない。

〈土壤墓 5 号〉

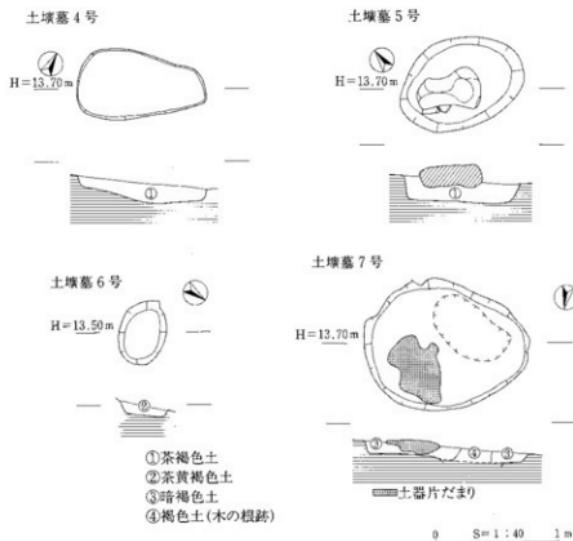
36号墳丘上の北西側に位置する。平面は楕円形で底面は平坦である。規模は、上縁部96cm、底面80cm、深さ17cmを測る。土壤には最大約53cmの石があり小さい平石がつめ込まれていた。遺物は出土していない。

〈土壤墓 6 号〉

36号墳丘上北側に位置する。平面は円形で底面は平坦で浅い。規模は、上縁部39cm、底面28cm、深さ7cmを測る。遺物は出土していない。

〈土壤墓 7 号〉

36号墳丘上北西側に位置する。平面は不整の円形で底面は平坦で一部は擾乱をうけている。規模は、上縁部135cm、底面125cm、深さ10cmを測る。遺物は土器片だまりを検出し、その内環(12~15)4点が復元できた。



插図17 土壤墓 4号、5号、6号、7号断面図

〈土壙墓 8号〉

36号墳丘上北側で土壙墓 7号の西側に位置する。平面は円形で底面は平坦で浅い。規模は上縁部57cm、底面54cm、深さ10cmを測る。土壙墓のすぐそばには焼土がある。遺物は出土していない。

〈土壙墓 9号〉

36号墳丘上南西側で土壙墓 3号の東側に位置する。平面は円形で底面は平坦である。規模は、上縁部50cm、底面35cm、深さ29cmを測る。遺物は出土していない。

〈土壙墓 10号〉

36号墳丘上南西側で土壙墓 9号の南側に位置する。平面は橢円形で底面は平坦である。規模は、上縁部127cm、底面117cm、深さ35cmを測る。遺物は出土していない。

〈土壙墓 11号〉

36号墳丘上北西側で土壙墓 7号の東側に位置する。平面は不整の円形で底面は平坦であるが搅乱をうけている部分もある。規模は、上縁部63cm、底面57cm、深さ8cmを測る。遺物は出土していない。

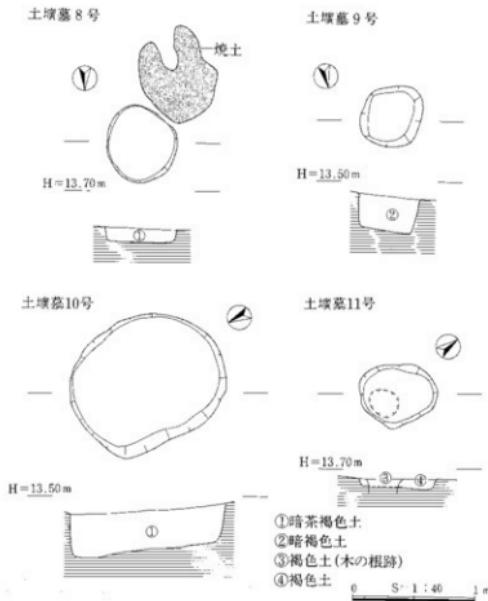


図18 土壙墓 8号、9号、10号、11号平面図

〈土壤墓12号〉

36号墳丘北側に位置する。平面は不整の楕円形で底面は東よりに深くなっている。規模は、上縁部113cm、底面100cm、深さは深いところで31cmを測る。遺物は出土していない。

〈土壤墓13号〉

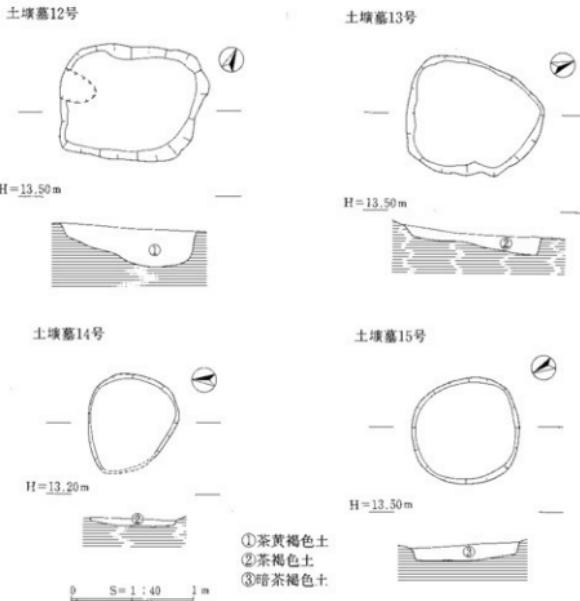
36号墳丘上北側で土壤墓12号の南側に位置する。平面は不整の楕円形で底面はゆるやかに斜目に下っている。規模は、上縁部112cm、底面103cm、深さ7cm~15cmを測る。遺物は出土していない。

〈土壤墓14号〉

36号墳丘上西側に位置する。平面は不整の円形で底面は平坦で浅い。規模は、上縁部73cm、底面68cm、深さ6cmを測る。遺物は出土していない。

〈土壤墓15号〉

36号墳丘上北側に位置する。平面は円形で底面は平坦である。規模は、上縁部88cm、底面81cm、深さ13cmを測る。遺物は出土していない。



插図18 土塚墓12号、13号、14号、15号平面断面図

〈土壤墓16号〉

36号墳丘北側に位置する。平面は円形で底面は平坦である。規模は、上縁部71cm底面65cm、深さ15cmを測る。遺物は出土していない。

〈土壤墓17号〉

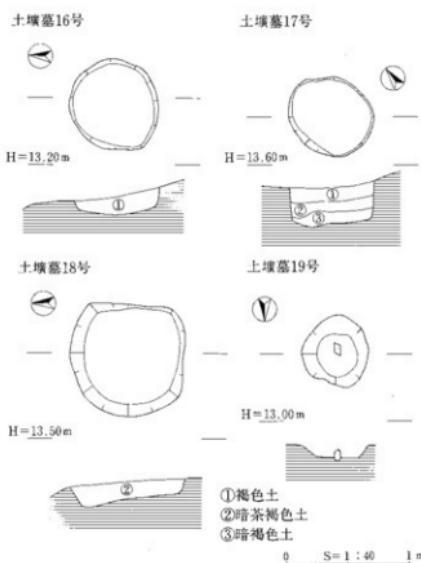
36号墳丘上北西側で土壤墓7号の南側に位置する。平面は円形で底面は平坦である。規模は、上縁部70cm、底面64cm、深さ30cmを測る。遺物は出土していない。

〈土壤墓18号〉

36号墳丘上北西側で土壤墓15号の西側に位置する。平面は不整の円形で底面はほぼ平坦である。規模は、上縁部94cm、底面78cm、深さ18cmを測る。遺物は出土していない。

〈土壤墓19号〉

36号墳端南側に位置する。平面は円形で底面は平坦である。中央部に長さ約20cm厚さ約10cmの石が底にくいに込んだ状態で検出された。規模は、上縁部55cm、底部33cm、深さ12cmを測る。遺物は出土していない。



插図20 土壤墓16号、17号、18号、19号平面断面図

表1. 濑戸35号墳出土遺物

遺物 番号	排 岡	固 形	名 称	出 土場所	法 量 (cm)	形 態	手 法	焼 成	色 調	胎 土
1	21	10	鉄 刀	1号埋葬 施設	残存長 60.8 最大幅 3.8 最大厚 1.0	布痕あり				
2	21	10	刀 子	1号埋葬 施設	残存長 9.6 最大幅 2.3 最大厚 0.6	布痕あり				
3	21	10	土師器 高環 壺	北側南植 土上	口径 8.3 器高 残存7 脚 径 12		内面 脚部へラ削り。 脚部ハケメ 外面 以降口縁部 ヘラミガキ。脚部 縦方向にヘラミガ キ。接合部ハケメ。	良	明薄茶色	最大 5 mm の石 英、3 mm 以下の 長石を含む。
4	21	10	土師器 高環脚 壺	北側南植 土上	脚部は八の字に開く。 3 方に円形の 透かしが入る。		内面 脚部内面箇 部へラ削り後、縦 方向へラ削り。脚 部はハケメ後横ナ ヂ。 外面 脚部縦方向 にヘラミガキとハ ケメ(脚部3方に 円形の透かしが入 る)脚部は横ナヂ。 脚端部はミガキが してある。	良	内面 一 部薄褐色 外面 明 薄茶色	最大 5 mm の石英 を含む。
5	21	10	土師器 小形丸 底窓	周溝底面	口径 7.6 器高 9.5	口縁は直立ぎみに 内傾する。肩部が 張る。		良	明茶色	3 mm 以下の石 英、長石を含む。
6	21	10	黒曜石	南東周溝 土上	最 大 8 重 さ 67 g				黒	
7	21	10	黒曜石	周溝底面	最 大 9 重 さ 370 g				黒	
8	22	10	石 破	北東埴丘 盛土中	長さ 8.3×9.5 重さ 680 g				明灰白色	
9	22	11	石 破	北東埴丘 盛土中	長さ 9.7×9 重さ 535 g	使用痕あり			明灰白色	
10	22	11	石 破	南西埴丘 盛土中	長さ 7×3.7 重さ 70 g				灰色	
11	22	11	石 鍤	南北埴丘 盛土中	長さ 4.5×4.5 重さ 49 g				灰白色、 薄橙色	

表2. 土壙墓群・瀬戸36号墳出土遺物一覧表

遺物番号	埋蔵年	名 称	出土場所	法 量 (cm)	形 態	手 法	焼 成	色 調	胎 土
12	23	11 土師器 環	土壙墓7 号	口 径 9.8 器 高 3.3 底部径 6.0	平坦な表面から外 方に広がり内傾ぎ みに終わる。	内外面とも横ナ デ。 底部回転糸切底。	良	茶褐色	2mm以下の砂粒 を含む。
13	23	11 土師器 環	土壙墓7 号	口 径 9.1 器 高 2.5 底部径 5	平坦な表面から外 方に大きく開く。	内外面とも横ナ デ。 底部回転糸切底。	良	橙色	最大5mmの長石 を含む。
14	23	11 土師器 環	土壙墓7 号	口 径 9.2 器 高 2.7 底部径 9	平坦な表面から外 方に開く。	内面 回転横ナ デ。 外西 橫ナデ。 底部糸切後ナデ。	良	緑茶色	2mm以下の石 英、長石を含む。
15	23	11 土師器 环	土壙墓7 号	口 径 10.4 器 高 3.6 底部径 7	平坦な蓋部から外 方に開く。	内外面とも横ナ デ。 底部回転糸切底。	良	緑茶色	2mm以下の長石 を含む。
16	23	12 上脚器 鼓形彫 合	36号墳外 南西	口 径 19	受部口縁部は外方 に開く。筒部に工 具により凹みがあ る。	内外面不明 筒部へラ状工具で オサエ。	普通	黄褐色	2mm前後の石 英、長石を含む。
17	23	12 土師器 小形丸 底査	西周清底 面	口 径 7.4 器 高 8.5	口縁は直立ぎみに 外反する。底がや や尖る感じ。	内面 口縁部から 肩部にかけて横ナ デ。底部に指頭压 痕とヘラ削りが残 る。 外面 体部はハケ メ調整してある。	良	淡茶褐色 (一部灰色)	3mm以下の石 英、長石を含む。
18	23	12 痛患器 高 环	北西墳丘 埋土中	器 高 残存4.6 脚端径 7.2 脚 高 2.8	脚部は下方向に下 り、底部はやや上 向きに開き、脚端 部は内傾してい る。环部に凹縫が 見られる。	内面 脚部へラ削 りで脚部ナデが残 り、自然離が残る。 外面 脚部横ナデ で施部ナデが残 る。全体に自然離 が残る。	良好	内面 淡 灰色 外面 淡 綠灰色 自然離	1~2mm大の長 石を多く含む。
19	23	12 痛患器 环 罩	北西墳丘 埋土中	口 径 11.7 器 高 3.9	天上部と口縁部と の境界にわずかに 凹みがある。口縁 部はわずかに内溝 する。	口縁部内外横ナ デ。天上部外側へ ラ削り後ナデ。	良好	灰色	3mm以下の砂粒 を含む。
20	23	12 痛患器 环 身	北西墳丘 埋土中	口 径 10.4 器 高 4	底部にヘラおこし による凹みがあ る。口縁部は内傾 しながら立ち上る。 端部は丸くお さめる。	口縁部内外横ナ デ。底部外側へラ おこし後ナデ。	良好	灰色	3mm以下の砂粒 を含む。
21	23	12 石 やじり	36号墳外 南西	長さ 3.3 重さ 2.4g				灰色	
22	23	12 勾 玉	3号埋葬 施設	長さ 2.9 重さ 0.8g				薄緑色	
23	23	12 勾 玉	3号埋葬 施設	長さ 3.1 重さ 0.9g				薄緑色	
24	23	12 勾 玉	3号埋葬 施設	長さ 3.0 重さ 0.9g				薄緑色	

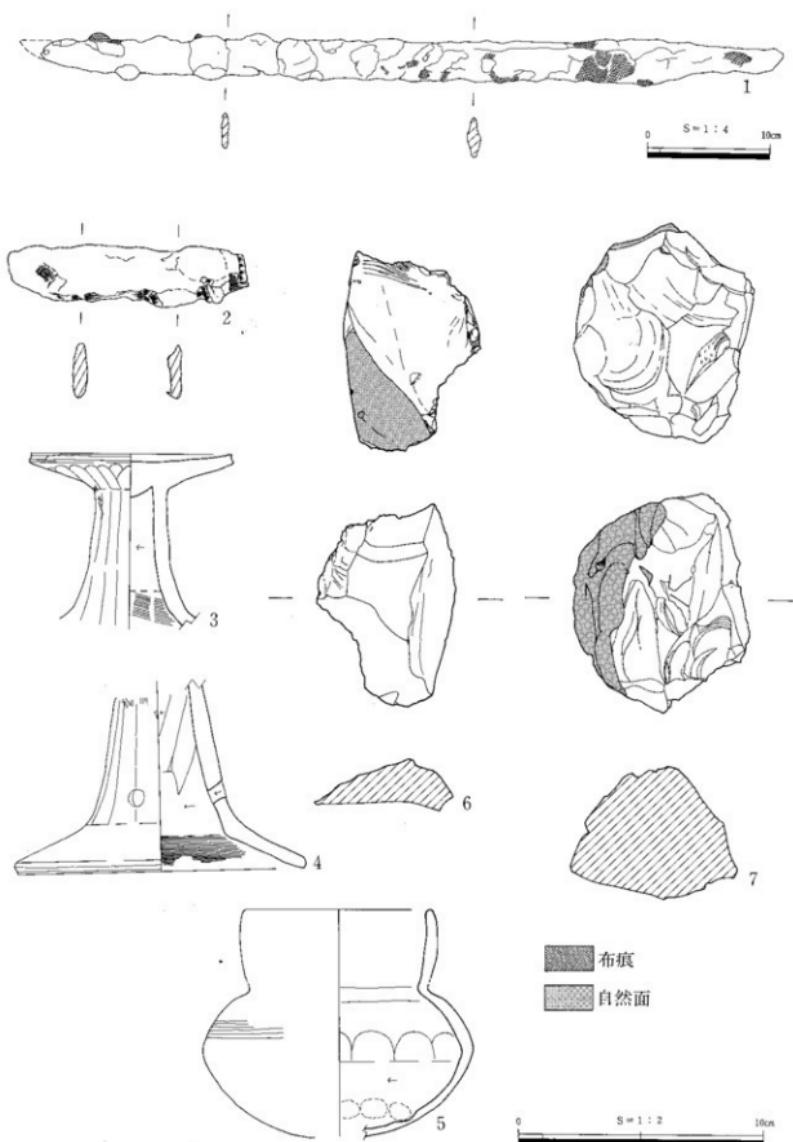
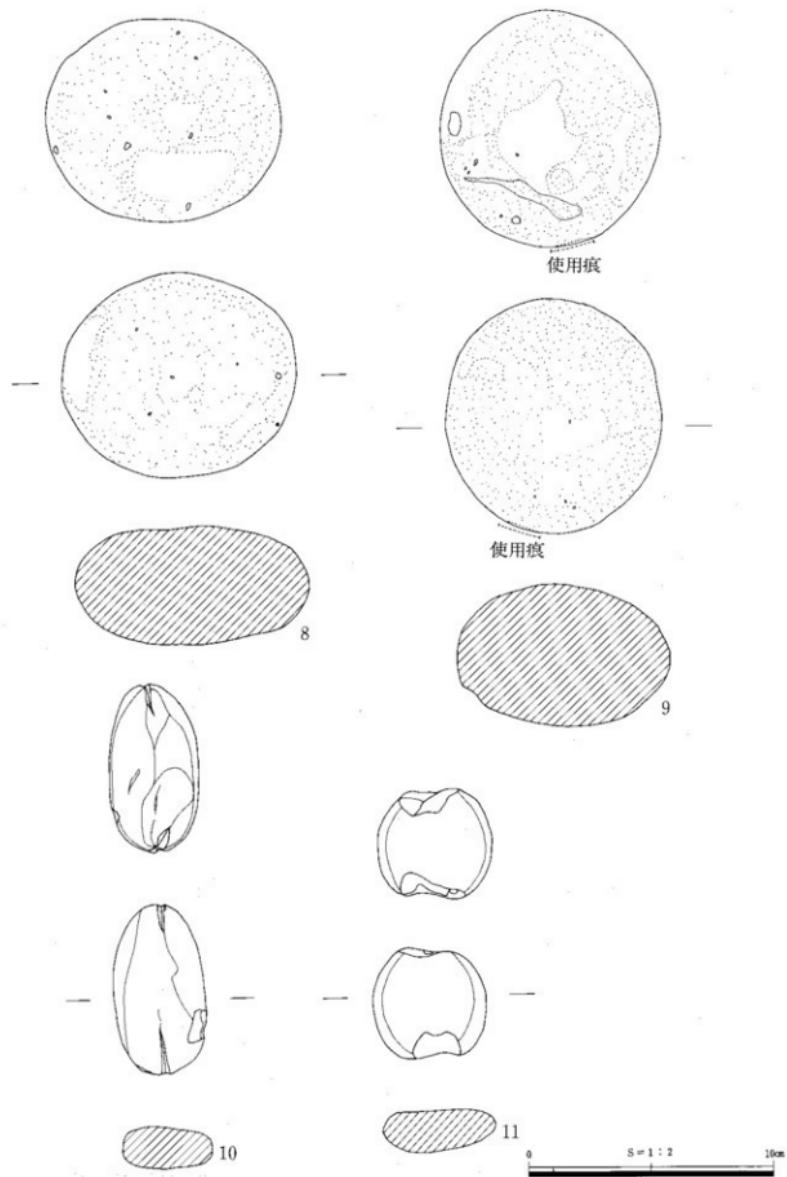
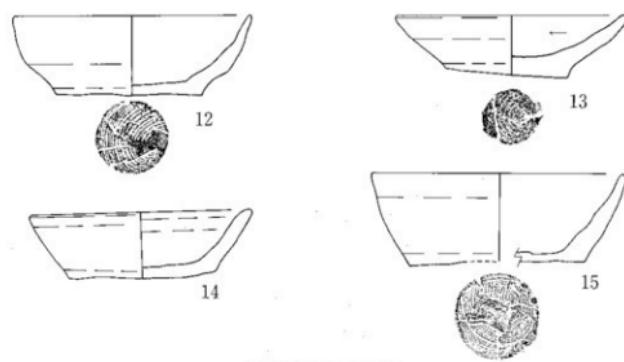


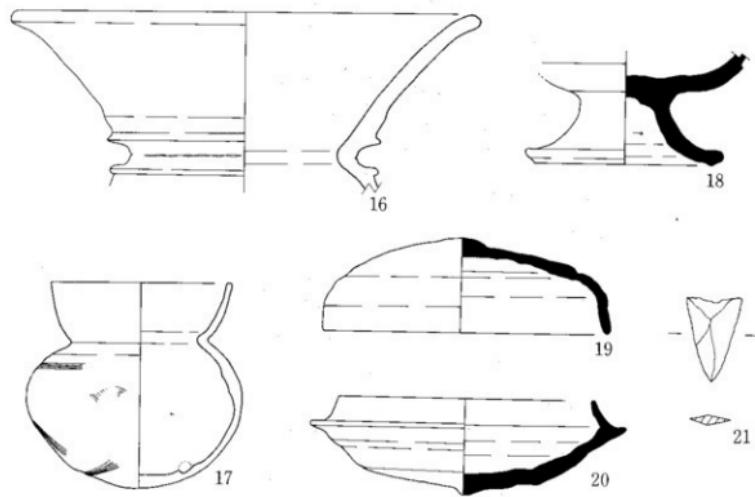
插图21 潟戸35号墳出土遺物実測図



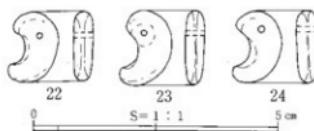
插図22 濑戸35号墳出土遺物実測図



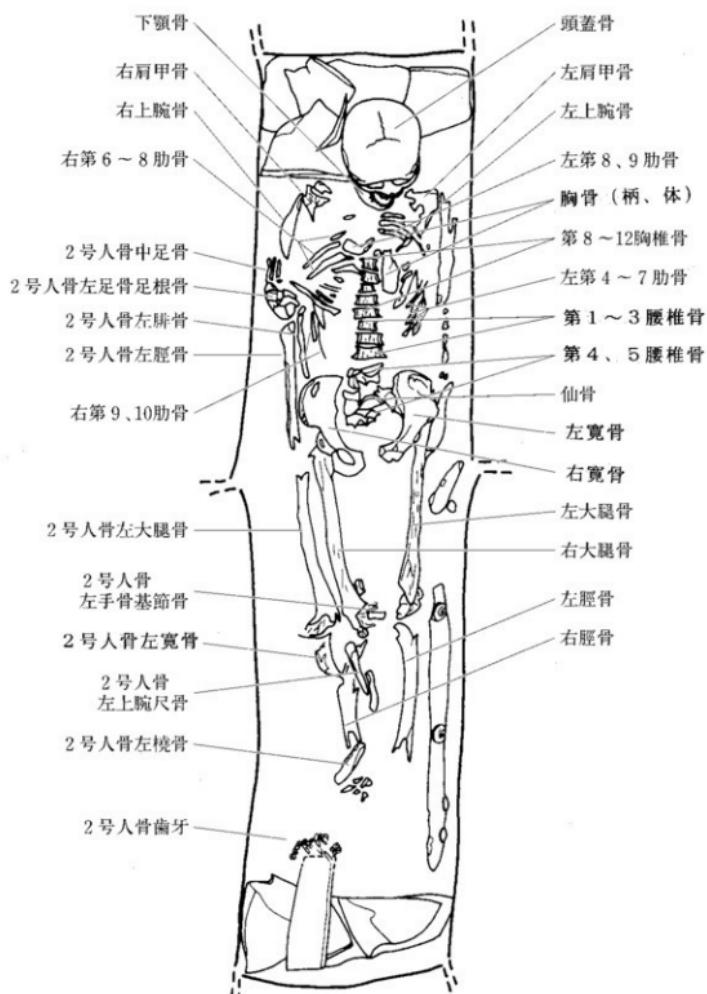
土壤墓 7号出土遺物



0 S = 1 : 2 10cm



挿図23 土壤墓群・瀬戸36号墳出土遺物実測図



插図24 濑戸35号墳 1号・2号人骨遺残骨名

第4章 まとめ

今回調査を行った瀬戸岩子山遺跡は、町の南西丘陵上で、瀬戸金比羅宮の南に位置し、北西側には97基を数える瀬戸・西穂波古墳群が存在している。今回調査した遺跡から未盗掘の古墳と自然や人工的に削平を受けている古墳の2基を検出した。

この2基の古墳は新発見であり、瀬戸古墳群（総数34基）に近いことから、瀬戸35号墳、36号墳とした。瀬戸35号墳は円墳で、主体部の箱式石棺と墳裾部から子供用の箱式石棺の2基を検出した。主体部からはV字状の石枕をした男性人骨と女性人骨の2体を検出し、副葬品に布痕のある鉄刀と刀子を検出した。頭蓋骨には赤色顔料が付着していた。子供用の箱式石棺からもV字状の石枕が検出された。瀬戸36号墳は方墳で、墳頂部から2基の箱式石棺残欠と墳裾部から2基の石蓋土壙墓の計4基を検出した。2基の箱式石棺の内1基には35号墳の石棺と同じV字状の石枕が残存していた。他に36号墳上から石蓋土壙墓や土壙墓が検出されている。

これまで瀬戸古墳群で確認されている古墳のはほとんどが横穴式石室で6世紀後半から7世紀初頭のものであり、由良川流域に面した丘陵地に存在する古墳も古墳時代後期のものがほとんどである。本古墳で検出された箱式石棺はこの地域の特徴であるV字状の枕石を配しているが、瀬戸古墳群や西穂波古墳群ではこれまでに確認されていない埋葬形態である。町内では、妻波古墳群で同じ埋葬形態の箱式石棺が確認されており、中でも妻波1号墳（向畠古墳・5世紀中期）では、瀬戸35号墳の1号埋葬施設と同じ形態の箱式石棺及び、V字状の石枕が検出されている。その埋葬形態は男性1体と反対側から上に重なった女性1体が埋葬され、副葬品として布痕のある直刀と刀子が検出されており、瀬戸35号墳と大きく類似する。埋葬形態等から推測すると、35号墳は妻波古墳群と同時期（古墳時代中期）のものと考えられ、瀬戸古墳群内でも古い時期のものと考えられる。出土遺物の内、周溝底面で出土した小形丸底壺（5）は青木編年のⅧ期に該当すると考えられ、出土遺物からも古墳時代中期の築造であることが確かめられる。また、腐植土層で出土した高环脚部（4）も同様の時期のものと考えられる。

瀬戸36号墳からもV字状の石枕を持った箱式石棺が検出されている。埋葬施設の形態から35号墳と同様な時期に築造されたと考えられる。周溝底面から出土した小形丸底壺（17）は、35号墳から出土した小形丸底壺（5）よりやや古相を示すことから、35号墳より築造がさかのばると考えられる。また、表土及び流土中から出土した須恵器壺蓋（19）、壺身（20）、高环（18）は田辺編年T K209併行期であると考えられ、本古墳は6世紀終末から7世紀初頭まで古墳として意識され、祭祀が行われていた可能性もある。

石蓋土壙墓群や土壙墓群は、36号墳の墳頂部が削平され周溝を埋め立てた後に造られており、土壙墓7号の出土遺物（12～15）から推測すると12世紀代のものと考えられる。

瀬戸岩子山遺跡の南端部には五輪塔が2塔と、明治初頭に岩子八幡宮から瀬戸神社に移された鳥居の跡と思われる土坑を検出した。

注1) 大村俊夫・戸田正子「伯耆向畠古墳」『ひすい』27号 1956所収

注2) 大冢町『大冢町誌』1980所収

付 章

瀬戸35号墳出土人骨

鳥取大学医学部法医学教室 井 上 晃 孝

瀬戸35号墳出土人骨

鳥取大学医学部法医学教室

井 上 晃 孝

I. はじめに

鳥取県大栄町瀬戸地内の瀬戸岩子山遺跡の瀬戸35号円墳（古墳時代中期、5世紀頃）の主体部の箱式石棺は、かなりていねいな作りであった。

石棺の両端には、V字状の石枕があった。

被葬者2体は仰臥伸展位で、その石枕を頭位にして、反対方向から下肢骨を交差する形状で埋葬されていた。

頭位が西方向の人骨（1号人骨、♂）は、骨の遺残性がかなり良好で、ほぼ骨格順に遺残していた。

前頭部と顔面部には、鮮紅色の朱（水銀朱）が多量に付着していた。

頭位が反対側の東方向の人骨（2号人骨、♀）は、骨の遺残性が不良で、上、下顎の歯牙と上、下肢骨が若干遺残していた。

歯牙が遺残していた部位には、わずかに朱を認めた。

被葬者2体は、頭位を反対にして下肢骨を交差する形状で埋葬されており、下位に2号人骨（♀）、上位に1号人骨（♂）が位置していた。

これら被葬者2体について

1. 骨の遺残性
 2. 遺残骨名とその部位
 3. 性別推定
 4. 年令推定
 5. 身長推定
 6. その他
- 順次報告する。

II. 1号人骨

1. 骨の遺残性

本屍骨の遺残性は、かなり良好で、ほぼ骨格順に遺残していた。しかし、手足の末梢骨は消失していた。

2. 遺残骨名とその部位

1) 頭蓋骨

頭蓋骨：ほぼ完形（右頭頂後部一部欠、頭蓋底部一部欠）

下顎骨：完形

歯 牙：	$\gamma \times \times \circ \circ \circ \triangle \triangle$	$\circ \triangle \circ \circ \circ \times \times \times$
	8 7 6 5 4 3 2 1	1 2 3 4 5 6 7 8
	8 7 6 5 4 3 2 1	1 2 3 4 5 6 7 8
	$\circ \circ \circ \circ \circ \circ \circ \circ \circ$	$\circ \circ \circ \circ \circ \times \times \circ$

\circ ：釘植歯牙

\triangle ：遊離歯牙

\circ ：埋状歯牙

\times ：歯槽閉塞

γ ：歯根のみ

2) 脊椎骨

頸椎骨：7ヶ、No.1～7、完形骨（-）

胸椎骨：6ヶ、No.1、8～12、完形骨（-）

腰椎骨：5ヶ、No.1～5、ほぼ完形

仙椎骨：2ヶ、No.1～2、融合

3) 胸部骨

胸 骨：胸骨柄 骨片化

胸骨体 骨片化

肋 骨：左；7ヶ、No.4～10、両端欠

右；5ヶ、No.6～10、両端欠

4) 上肢骨

肩甲骨：左；関節部、肩峰部と外側縁の一部

右；関節部、肩峰部と外側縁の一部

上腕骨：左；骨体～下端部

右；骨体部

5) 下肢骨

寛 骨：左；ほぼ完形

右；完形

大腿骨：左；下端部一部欠、全長40.5cm

右；ほぼ完形、全長40.5cm

脛 骨：左；骨体

右；骨体

腓 骨：左；骨体の一部

足 骨：左；踵骨 骨片

3. 性別推定

頭蓋骨の諸形態学的特徴、寛骨の恥骨下角と大坐骨切痕の形状と上、下肢骨の筋付着部の粗面の発達が良好、これらは明らかに男性骨が具備する形態を有しているので、本屍骨は男性と推定する。

4. 年令推定

遺残する頭蓋骨の頭蓋冠3縫合の癒着の程度、口蓋縫合のうち、切歯縫合はほぼ完全癒着、正中口蓋縫合の口蓋骨部は下1／3が癒着、恥骨結合面の加令的变化を加味すると、本屍骨の年令は30代前半（壮年中期）位が推定される。

5. 身長推定

遺残する長管骨長から計測すると、本屍の生前の身長は、ピアソン法¹⁾で157cm位と推定する。

6. その他の

本屍の頭骨の前頭骨と顎面骨全面に鮮紅色の朱（水銀朱）が認められた。

左右の眼窩部では、顎面に近い眼窩上縁と下縁には水銀朱が多量に認められたが、眼窩底部（蝶形骨部）には朱の付着を認めなかった。

さらに、左右の鼻腔内でも朱の付着を認めなかった。

III. 2号人骨

1. 骨の遺残性

本屍骨の遺残性は、きわめて不良である。

遺残骨量も少なく、上、下顎の歯牙と若干の上、下肢骨である。

遺残骨は脆弱化して、きわめてもらい。

2. 遺残骨名とその部位

1) 頭蓋骨

下顎骨：左下顎枝 骨片化

歯 牙：	△△	△	△△△
7 6	3		1 2 3
6 5 4 3 2 1		3 4	
△△△△△△△		△△	

△：遊離歯牙

2) 上肢骨

尺 骨：左；骨体の一部

桡 骨：左；骨体の一部

手 骨：左；基節骨 骨片化 3ヶ

3) 下肢骨

寛 骨：左；寛骨臼窓部、腸骨体の一部

大腿骨：左；骨体

脛 骨：左；骨体

腓 骨：左；骨体の一部

右；骨体の一部

足 骨：左；足根骨（踵骨、距骨、舟状骨、楔状骨、立方骨） 骨片化

中足骨 骨片化

3. 性別推定

本屍左下肢の大腿骨の骨体は、細く纖細で、後面の殿筋粗面と恥骨筋線の発達が弱い。

遺残する上、下顎の歯牙の歯冠径は、全般的に小さい、とくに下顎の中切歯と側切歯の歯冠は小さい。

以上は、女性骨が具備する所見であるので、本屍骨は女性と推定する。

4. 年令推定

遺残する長管骨の骨端は、完全融合している。

上、下顎の中切歯の咬耗度は、プロカーナの2°で、象牙質が点状と線状に露出しているが、小白歯と大臼歯はプロカーナの1°で、平坦化しているが、エナメル質にとどまっている。

年令は大約20代後半（壮年中期）位が推定される。

5. 身長推定

発掘現場での長管骨の遺残状況から計測すると、身長はピアソン法で約143cm位である。

6. その他

2号人骨（♀）の頭蓋骨は消失してなく、わずかに左下顎の一部が遺残していた。

遊離歯牙が遺残していた位置には、発掘当時明らかに朱が認められたが、骨の掘り上げ時には変色（退色）していた。

2号人骨（♀）の頭部の朱は、恐らくベンガラ由来と推定する。

1号人骨（♂）の前頭部と顔面部にみられた鮮紅色の朱（水銀朱）とは明らかに異なっていた。

IV. 考 察

1. 埋葬順序

骨の遺残状況からみると、被葬者は頭位を反対にして、下肢骨を交差する形状で埋葬されていた。

遺残骨をみる限り、後世の骨の攪乱は認められない。石棺内には、大腿骨が方向性が逆ながら、3個並列遺残していた。

すなわち、2号人骨（♀）の左大腿骨と1号人骨（♂）の左右の大転骨である。

2号人骨（♀）の右大腿骨は、恐らく、1号人骨（♂）の下部に位置していた筈であるが、すでに消失していた。

これら2被葬者の骨の遺残性と遺残骨量をみると、1号人骨（♂）の骨の遺残性はかなり良好で、遺残骨量も多い。しかし、2号人骨（♀）の骨の遺残性はかなり不良で、遺残骨量も少くない。

本石棺内の被葬者は、成人男女2体である。追葬者が埋葬されてから、発掘されるまでの間、同じ年数と条件を経過してきたので、それ以前の埋葬年数が、骨の遺残性と骨量に影響する。

以上のことから、下位に位置し、骨の遺残性が悪く、遺残骨量の少くない2号人骨（♀）が、先に埋葬され（初葬）、次に上位に位置する1号人骨（♂）が追葬されたと推察する。

2. 被葬者同志の関係

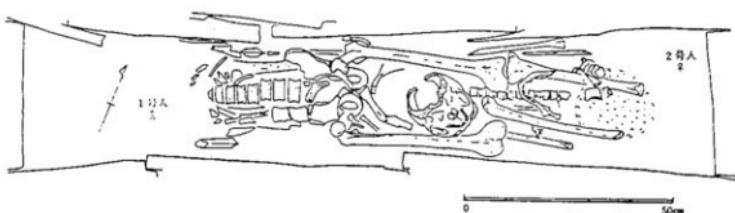
主体部の箱式石棺の大きさは、縦1.9m、横0.45m、深さ0.30mで、1体用の石棺であるのに、被葬者は成人男女2体が埋葬されていた。

このように、狭い石棺内に、あえて成人男女が埋葬され、頭位を反対にして、下肢骨を交差する形状であることから、両者は生前きわめて親密な関係が想定されることから、夫婦関係が推察される。

このような成人男女2体が頭位を反対にして、下肢骨を交差する形状で埋葬された事例は、山陰地方でも特殊な埋葬形式であり、自験例を示すと、次のようなのがある。

1) 古墳（箱式石棺）例

島根県加茂町川子谷B 1号墳²⁾

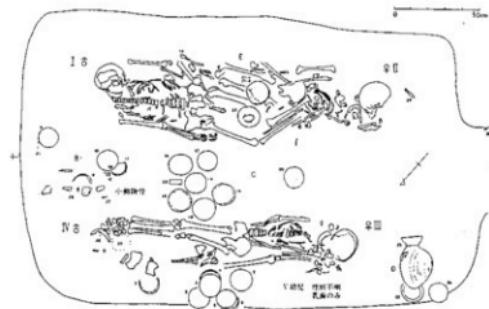


人骨	骨の保存状態	性別	年齢推定	身長推定	血液型	続柄
1号人骨	やや良好	男性	壮年(30代前半)	165cm	A型	夫?
2号人骨	やや悪い	女性	壮年(20代)	145cm	A型	妻?

図1. 川子谷B 1号墳出土人骨

2) 横穴例

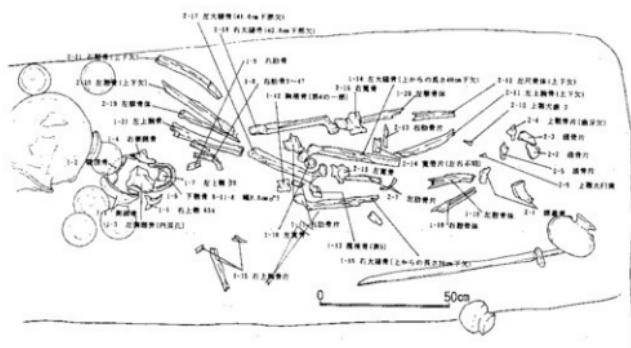
①島根県三刀屋町東下谷 6号横穴³⁾



人骨	骨の保存状態	性別	年齢推定	身長推定	血液型	続柄
1号人骨	良好	男性	壮年(30代)	150cm	B型	夫?
2号人骨	やや悪い	女性	壮年(25才前後)	147cm	A型	妻?
3号人骨	やや良好	女性	壮年(20代)	143cm	B型	妻?
4号人骨	悪い	男性	壮年(30才前後)	154cm	B型	夫?
5号人骨	不良	不明	児(2~5才位)	不明	B型	児?

図2. 東下谷6号横穴遺物出土状況

②島根県松江市蒼沢谷横穴群C-1号横穴



横穴No.	被葬者数	人骨No.	性別	年齢推定	身長推定	続柄
C-1	3	1号	♀	壮年前期	142cm	妻(?)
		2号	♂	壮年前期	157cm	夫(?)
		3号	不詳	10才前後	不詳	児

図3. C-1横穴墓出土人骨実測図

3. 朱の付着

1号人骨(♂)の頭部(前頭部、顔面部)に鮮紅色の朱(水銀朱)が認められた。朱の付着には、2つの方法が考えられている。

- 埋葬時に、顔面一帯に朱をふりかける方法(顔面、前頭部を中心に、一部頸部、胸部にも朱残存)
- 白骨化後、洗骨した頭骨に朱を塗布する方法(頭骨全面に濃厚に朱付着)
本頭骨(1号人骨、♂)を精査すると、前頭部と顔面部に多量に朱の付着を認めるが、鼻腔内と眼窓底部には程んど朱の付着がない。顔面の小さな凹部には、朱の付着を認めるが、大きな陥凹部には全く認めない。

その上、頬頭面、後頭面と側頭面には、朱の付着を全く認めない。洗骨後、朱の塗布が行なわれば、頭骨全面に朱の付着がある筈である。

朱の付着が、前頭部と顔面部だけみられることは、洗骨後の朱の塗布はなかったものと推察される。

1号人骨（♂）は、主埋葬者であり、埋葬時に顔面一帯に朱（水銀朱）をふりかたものと推察する。

2号人骨（♀）は、副埋葬者であり、頭部付近（歯牙遺残部位）にわずかの朱の付着を認めた。しかし、数日後で退色したことから、これはベンガラ様の朱と推定された。

V. まとめ

鳥取県大栄町瀬戸の瀬戸岩子山遺跡の瀬戸35号円墳の主体部の箱式石棺には、その両端にV字状の石枕があった。

被葬者2体は仰臥伸展位で、その石枕を頭位にして、反対方向から下肢骨を交差する形状で埋葬されていた。

頭位が西方向の人骨（1号人骨）は、骨の遺残性がかなり良好で、ほぼ骨格順に遺残していた。

性別は男性、年令は30代前半（壮年中期）位、身長は157cmと推定された。

頭部（前頭部と顔面部）に鮮紅色の朱（水銀朱）が認められた。

頭位が東方向の人骨（2号人骨）は、骨の遺残性が不良、若干の歯牙と上、下肢骨が遺残していた。

性別は女性、年令は20代後半（壮年中期）位、身長は143cmと推定された。

頭部（歯牙遺残部位）にわずかの朱を認めた。後日、急速に退色したことから、この朱はベンガラと推定された。

被葬者2体（♂、♀）は、頭位を反対にして下肢骨を交差する形状で埋葬されており、下位に2号人骨（♀）、上位に1号人骨（♂）が位置していた。

後世の骨の擾乱は全く認められない。埋葬時のままである。

埋葬順序は、被葬者の体位の関係から、下位に位置する2号人骨（♀）が初葬、上位に位置する1号人骨（♂）が追葬されたと推察される。

被葬者同志の関係は、1人用の石棺に、あえて成人男女2体が特殊な埋葬形式（頭位を反対にして、下肢骨を交差する）で埋葬されたことは、生前かなり親密な間柄が思量され、夫婦関係が推察された。

文 献

1. Pearson, K. (1899): Mathematical contributions to the theory of evolution. V. On the reconstruction of the stature of prehistoric races, Phil. Trans. Roy. Soc. London, Ser. A. 192, 169-244.
2. 井上晃孝 (1988) : 川子谷B 1号墳出土人骨について、神原地区遺跡分布調査・川子谷B 1号墳発掘26-32、島根県加茂町教育委員会。
3. 井上晃孝 (1984) : 東下谷横穴群出土人骨について、東下谷横穴群発掘調査報告書30-48、島根県三刀屋町教育委員会。
4. 井上晃孝 (1994) : 菅沢谷横穴群出土人骨について、菅沢谷横穴群、松江市教育文化振興事業団文化財調査報告書第3集65-74、松江市教育文化振興事業団。
5. 市毛勲 (1975) : 朱の考古学、考古学選書12、東京、雄山閣。

付 図

1号人骨 (♂) の頭蓋骨 (1 ~ 8)

写真の説明

写真 1 : 頭蓋骨 (正 面)

1 : " (左側頭面)

2 : " (右側頭面)

3 : " (後頭面)

4 : " (頭頂面)

5 : " (頭蓋底面)

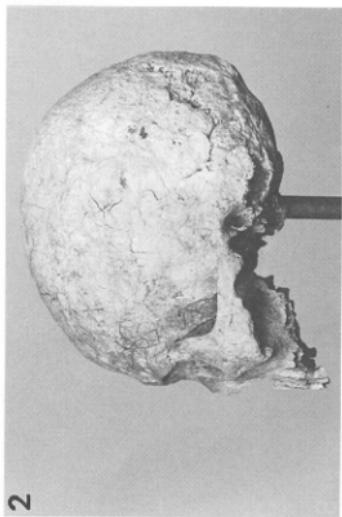
6 : " (下顎骨 (正 面)

7 : " (上 面)

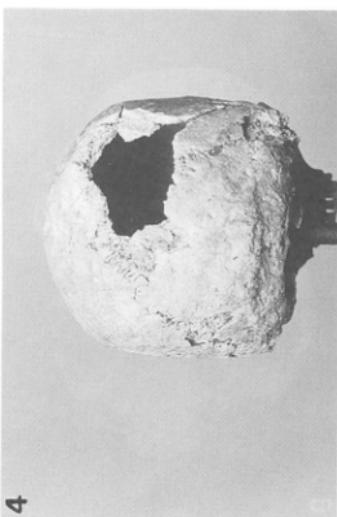
付表 潤戸35号墳出土人骨

1号人骨(♂)の頸蓋骨計測値

マルチンNo	計測項目				計測値(mm)	マルチンNo	計測項目				計測値(mm)
	頭蓋	骨	最	大			頭蓋	骨	最	大	
1	頭蓋	骨	最	大	長	184.0	62	口	蓋	長	48.3
5	頭蓋	骨	最	大	長	101.0	63	口	蓋	幅	39.5
7	大後頭孔底	長	—	—	—	—	65	下頸	頭	幅	133.8
8	頭蓋	骨	最	大	幅	148.0	65-1	筋突	起	幅	118.3
9	頭蓋	骨	最	小	幅	95.0	66	下頸	角	幅	119.2
10	頭蓋	骨	最	小	前頭	幅	124.0	67	前額	下頸	51.1
11	頭蓋	骨	最	大	前頭	幅	118.8	68	下頸	体	80.6
12	頭蓋	骨	最	大	後頭	幅	112.0	70	下頸	枝	71.0
13	乳孔	骨	最	大	突頭	幅	—	70-1	筋突	起	59.2
16	大後頭孔	骨	最	大	後頭孔	幅	29.0	71	下頸	枝	34.5
17	バジオントレグマ	高	—	—	142.0	—	—	—	—	—	—
40	顎	—	—	—	長	99.7	—	—	—	—	—
42	下顎	—	—	—	長	110.5	8/1	頭蓋	長	幅	80.0
43	上顎	—	—	—	幅	108.5	17/1	頭蓋	高	示数	77.0
44	下顎	眼骨弓	高	高	幅	99.7	17/8	頭蓋	幅	示数	95.0
45	中顎	顎骨弓	高	高	幅	133.0	16/7	大後頭孔	長	幅	—
46	上顎	顎面	高	高	高	97.8	47/45	コルマンの顎面示数	示数	示数	91.0
47	上顎	顎面	高	高	高	121.5	47/46	ウイルヒヨウの顎面示数	示数	示数	124.0
48	眼窩	高	高	高	高	70.2	48/45	コルマンの上顎面示数	示数	示数	52.0
51	眼窩	高	高	高	高	38.3	48/46	ウイルヒヨウの上顎面示数	示数	示数	71.0
52	眼窩	高	高	高	高	39.5	52/51	眼窩	示数	示数	左 91.0
54	眼窩	高	高	高	高	36.5	54/55	鼻	示数	示数	右 92.0
55	鼻骨	高	高	高	高	25.6	63/62	口蓋	示数	示数	48.0
56	鼻骨	高	高	長	長	52.3	66/65	下頸	幅	示数	81.0
57	鼻骨	最	小	幅	幅	24.1	—	—	—	—	89.0
57-1	鼻骨	最	大	幅	幅	8.0	—	—	—	—	—
						18.6	—	—	—	—	—



2



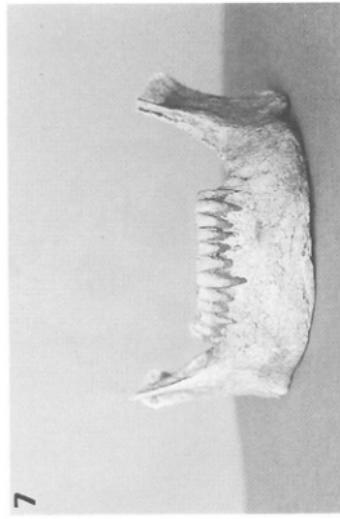
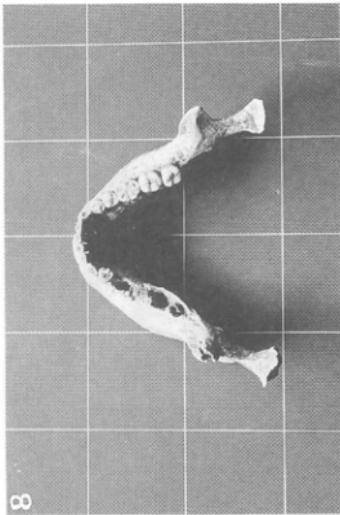
4



1



3



写 真 図 版

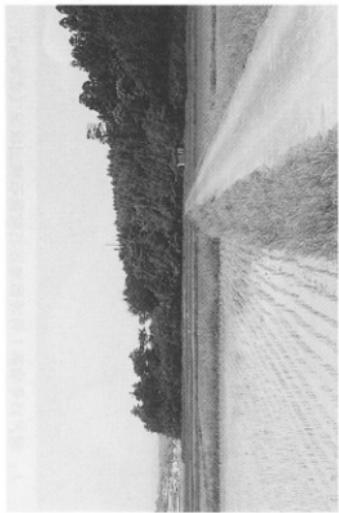
図版 1



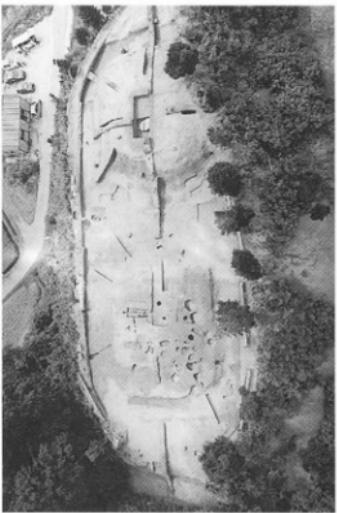
2. 湘戸35号・36号墳調査前近景（北から）



4. 湘戸35号・36号墳全景



1. 調査前遠景（東から）



3. 湘戸35号・36号墳全景

図版 2



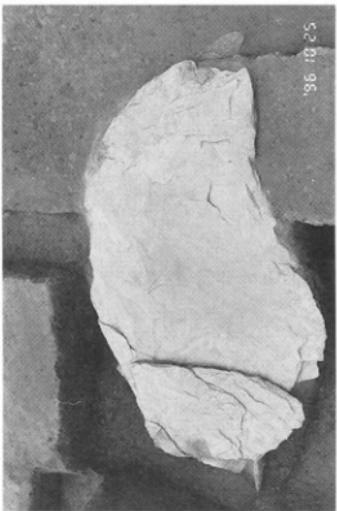
6. 潟戸35号墳堆丘盛土状況（南東から）



8. 潟戸35号墳第1号埋葬施設石棺蓋石除去後（南から）



5. 潟戸35号墳周溝埋土状況（東から）

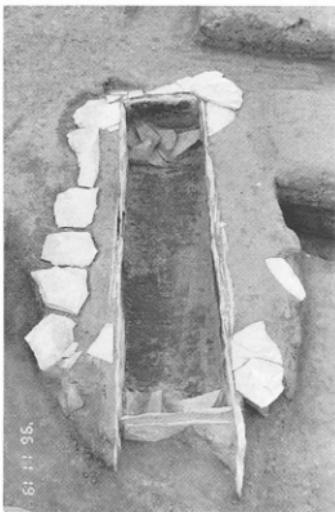


7. 潟戸35号墳第1号埋葬施設石棺蓋石検出状況（北から）

図版 3



10. 潟戸35号墳第1号埋葬施設石棺内 1号人骨



12. 潟戸35号墳第1号埋葬施設人骨取上げ後



9. 潟戸35号墳第1号埋葬施設石棺内

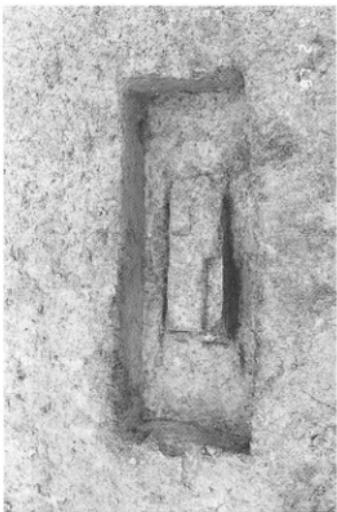


11. 潟戸35号墳第1号埋葬施設石棺内 2号人骨（歯牙）

図版 4



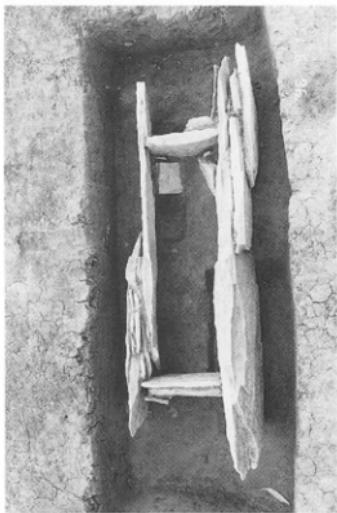
13. 潟戸35号墳第1号埋葬施設完掘状況（北から）



14. 潟戸35号墳第2号埋葬施設（東から）



15. 潟戸35号墳第2号埋葬施設石棺内（北から）



16. 潟戸35号墳第2号埋葬施設完掘状況（北から）

17. 潟戸35号墳第2号埋葬施設（北から）

図版 5



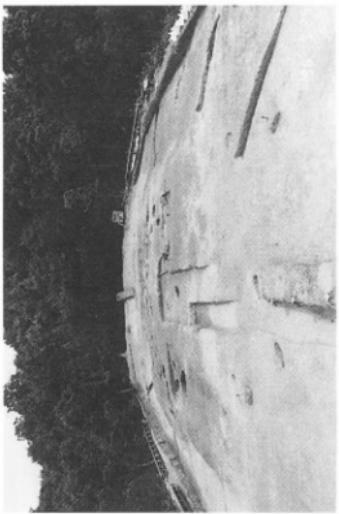
18. 潟戸35号墳周溝内黒曜石出土状況



20. 潟戸36号墳西側土層断面（南から）



17. 潟戸35号墳周溝内土器出土状況



19. 潟戸36号墳全景（南から）

図版 6



96-45

21. 湿戸36号墳北周溝状況（西から）



92-21-95.

22. 湿戸36号墳西周溝状況（南から）



21. 湿戸36号墳北周溝状況（西から）



95

23. 湿戸36号墳第1号埋葬施設（南から）

24. 湿戸36号墳第1号埋葬施設完成状況

図版 7



26. 洋戸36号填第2号埋葬施設完掘状況



26. 洋戸36号填第3号埋葬施設完掘状況（南から）



25. 洋戸36号填第2号埋葬施設（北から）

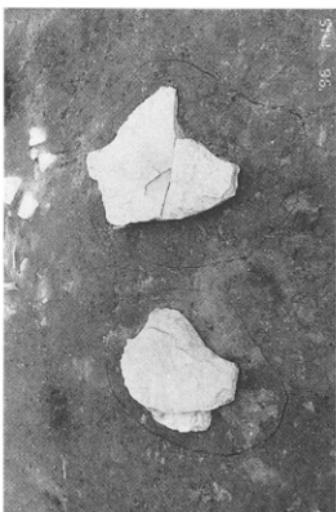


27. 洋戸36号填第3号埋葬施設（南から）

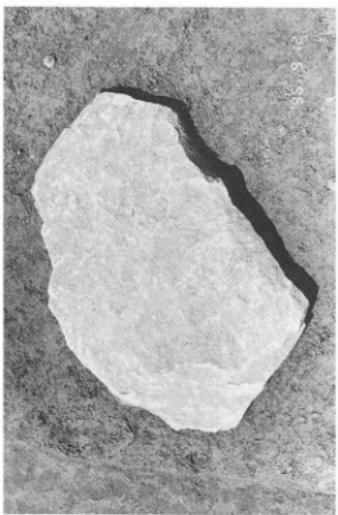
図版 8



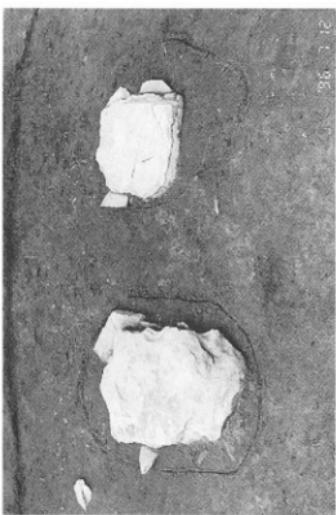
30. 潟戸36号墳第4号埋葬施設完掘状況（東南から）



32. 石蓋土塚墓3号・4号（西から）



29. 潟戸36号墳第4号埋葬施設（北から）



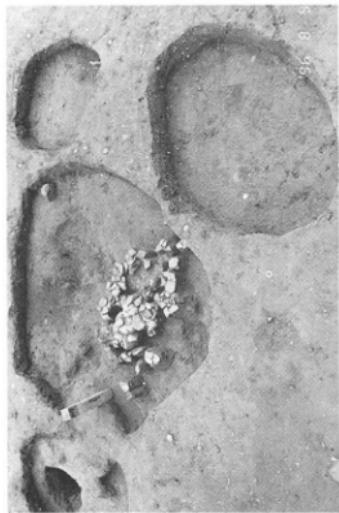
31. 石蓋土塚墓1号・2号（東から）



34. 潟戸36号墳西周溝内土器出土状況



36. 潟戸35号墳第1号埋葬施設人骨取上げ状況



33. 土器墓7号土器片出土状況（北から）

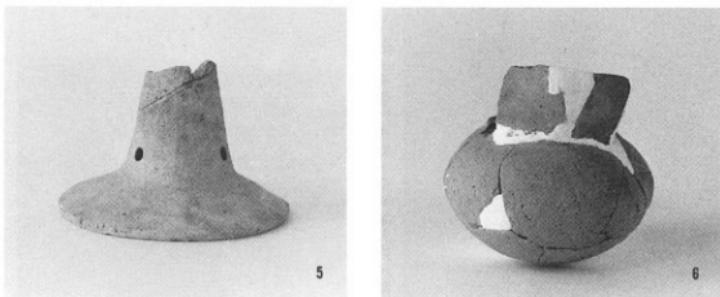
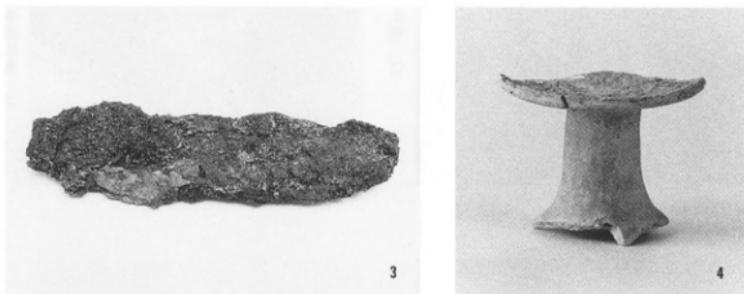


35. 潟戸岩子山遺跡 五輪塔

図版10

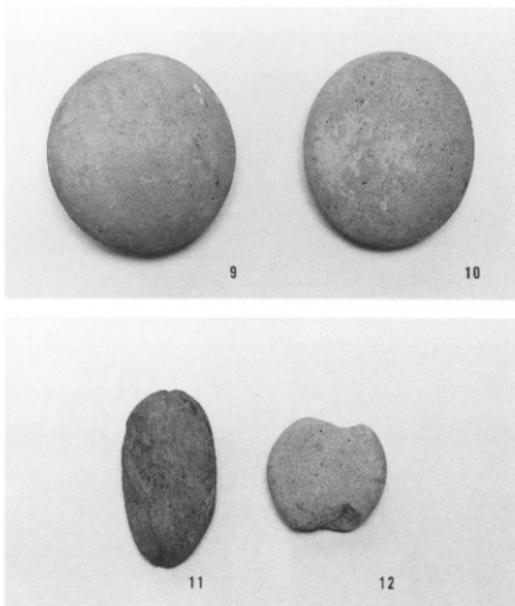


37. 濑戸35号墳第1号埋葬施設出土遺物（1～3）

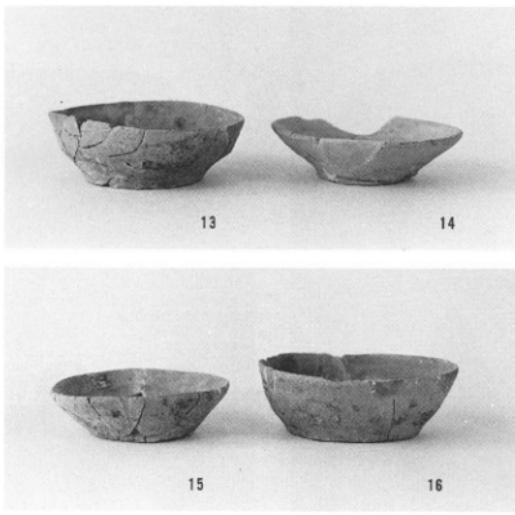


38. 濑戸35号墳出土遺物（4～8）

図版11

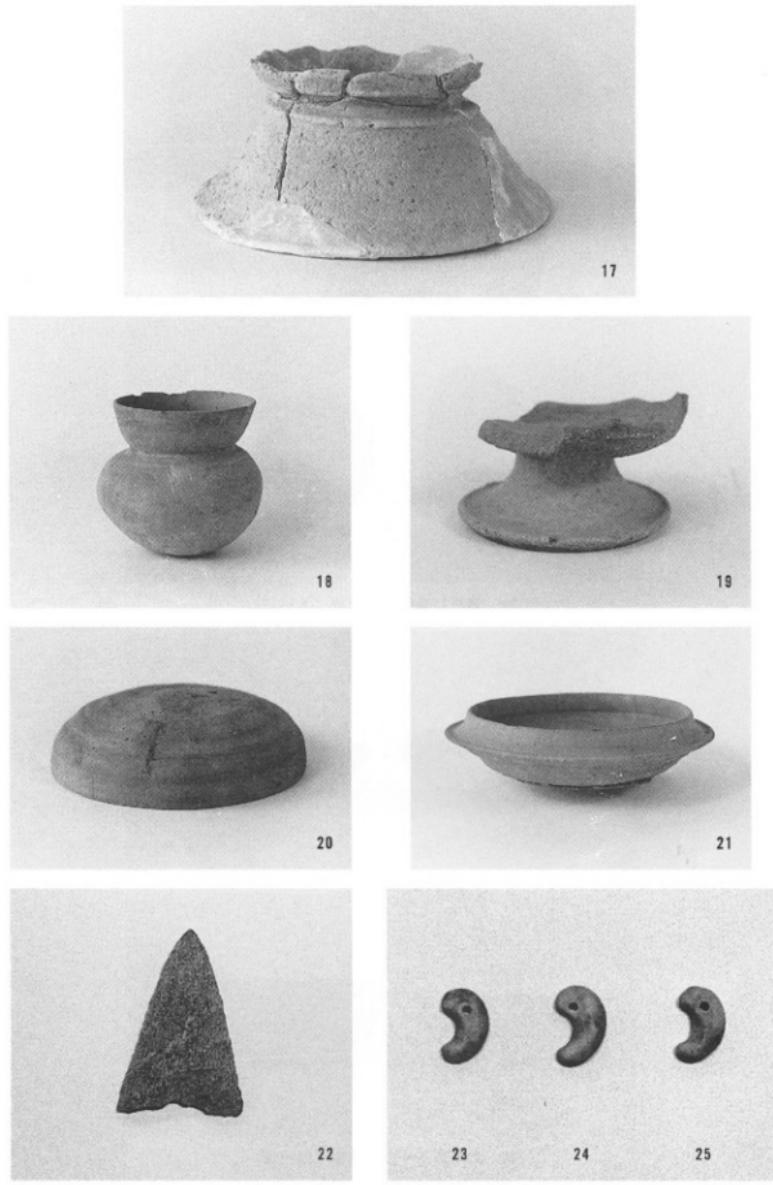


39. 潤戸35号墳出土遺物（9～12）



40. 土壙墓7号出土遺物（13～16）

図版12



41. 濑戸36号墳出土遺物（17～25）

報告書抄録

ふりがな	せといわこやまいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	瀬戸岩子山遺跡発掘調査報告書							
副書名	瀬戸35号・36号墳の調査							
巻次								
シリーズ名	大栄町埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第34集							
編著者名	永田洋子 河本いづみ							
編集機関	大栄町教育委員会							
所在地	〒689-2221 烏取県東伯郡大栄町大字由良宿423-1 Tel 0858-37-3111							
発行年月日	西暦 1998年 3月1日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド	北緯 ° °'	東經 ° °"	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
瀬戸岩子山	鳥取県東伯郡 大栄町大字 瀬戸字岩子山	31367	339	35度 28分 25秒	133度 46分 25秒	1996.03.04 ~ 1997.02.07	1,630	県営大倉地区 土地改良総合 整備事業
瀬戸35号墳	"	"	338					
瀬戸36号墳	"	"	344					
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な 遺 構	主な 遺 物	特 記 事 項			
瀬戸35号墳	古墳	古墳	古墳	2基	須恵器 土師器 鉄刀 刀子 勾玉	35号墳石棺内に人骨 2体遺存		
瀬戸36号墳								
瀬戸岩子山	墓	中世	石蓋土築墓 土壇墓	4基 19基	土師器 須恵器			

大栄町埋蔵文化財調査報告書第34集

瀬戸岩子山遺跡発掘調査報告書

瀬戸35号・36号墳の調査

発行 1998年3月

発行者 大栄町教育委員会

〒689-2221

鳥取県東伯郡大栄町大字由良宿423-1

☎ 0858-37-3111

印 刷 山本印刷株式会社
倉吉市広栄町971-21

